

2016 年度(平成 28 年度) ▶ 2025 年度(令和 7 年度)

橋本市生涯学習推進計画

【中間見直し版】

参考資料

2021 年（令和 3 年）3 月

橋本市教育委員会

目 次

Ⅰ 社会教育委員会議からの提言書

橋本市生涯学習推進計画に向けた提言書（平成 27 年 11 月 24 日）	2
橋本市生涯学習推進計画の見直しに向けた提言書（令和 3 年 3 月 1 日）	14

2 生涯学習推進計画策定委員会条例

20

3 生涯学習推進計画策定委員会名簿

橋本市生涯学習推進計画策定委員会名簿.....	22
橋本市生涯学習推進計画策定全体部会名簿.....	23
橋本市生涯学習推進計画策定委員会名簿（中間見直し時）	25

4 地域シンポジウム資料

26

5 市民アンケートの集計

37

6 策定経過

49

橋本市生涯学習推進計画に向けた提言書

平成27年11月24日
橋本市社会教育委員会議

目 次

I	基本理念	．．．．． 1
II	提言	
1	すべての人に出番を	．．．．． 2
2	子育てと学びの環境づくり	．．．．． 3
3	豊かな自然・文化・環境を生かす	．．．．． 5
III	資料	
1	社会教育委員名簿	．．．．． 7
2	経過	．．．．． 8

橋本市生涯学習推進計画に向けた提言

I 基本理念

地方創生の時代、持続可能な社会への転換が求められている時代、ますます橋本市を愛し、このまちを何とかしようという自治の精神を持って行動する市民が必要です。社会教育はそういう人材を発掘する、そういう人を育てるのが務めです。

特に子どもは未来の橋本市を担ってくれる大事な存在です。子どもたちには、自分の言葉で意見が言え、粘り強く考え解決する力を備え、思いやりの心をもって行動できる人に育ててほしいと思います。そして豊かな感性を持った人に育ててほしいと思います。そのためには大人が率先して実践し、子どもたちを守り育てていく必要があります。

生涯学習は生涯にわたって学習すること、市民一人ひとりがより幸せになるために行う学習のことと考えます。その学習の捉え方として二つの軸があります。その一つの軸、縦軸となるのが伝統文化等の伝承です。もう一つの軸、横軸となるのが人と人のつながり、ネットワークによる新たな出会いや学びです。この縦軸、横軸を意識した取組を一層推進していく必要があります。

また、橋本市の特色として評価されているものの一つに、子育てのしやすいまち、があります。これは、これまでの保健師や公民館職員のサポートによる取組に始まり、そしてその後の様々な行政の取組とその支援を受けた家庭教育支援チーム「ヘスティア」（平成 26 年度内閣府特命担当大臣表彰受賞）などの地道な活動によります。こうした取組をアピールするとともに一層推進していく必要があります。

さらに、行政がこれまで続けて来た市民の学びへの積極的な支援により橋本市の特色となっている生涯学習に関する講座をたくさん開講しているまち、芸術的な活動が熱心であるまち、などをアピールするとともに今後もこれらの取組を大切に、一層推進したいものです。

加えて、成熟した社会に入ってきた現在において、橋本市の名誉市民で世界的な大数学者・岡潔が祖父から受けた道徳教育「ひとを先にして、自分を後にせよ」を実践するまちづくりを進めたい。また、「人の中心は情緒（情）である」という岡潔の思想を踏まえ、情緒を大切に育てるまちづくりを進めたいものです。そのための提言です。

Ⅱ 提言

1 すべての人に出番を

(1) 社会教育関係団体の一層の充実について

橋本市においてはすでに市内外に評価の高い、社会教育関係団体活動、公民館サークル活動、市民大学いきいき学園など、質量共に他に誇れる生涯学習の仕組みがあります。特に高齢者にあっては仲間と共に社会貢献をしたり、趣味を楽しんだり、スポーツに興じたりすることで、充実感や楽しみを持つことができます。

そうした中で、特に市の生涯学習を推進する上で大きな役割を担うのが社会教育関係団体（平成26年度129団体）です。各団体の会員数の増加や活動内容の充実の支援につなげ、社会の変化や高齢化に対処するなど、今後も仕組みが十分に機能していくための様々な配慮が必要です。

私たちが平成26年度からですが、社会教育委員会議の時に、素晴らしい取組を行っている団体の方に来てもらって、その取組を学ぶというを行っています。

教育委員会では支援の一つとして、各社会教育関係団体の概要をとりまとめ、その一覧をホームページなどで公表する予定になっています。

また今後、団体同士の連携を図るため、各団体の詳しい活動内容を他の団体に知らせたり、合同で活動を行うことを支援したりすることを検討しています。そして、各団体の代表者等に、生涯学習を推進する上で当該団体が大きな役割を担っているということを知ってもらうための講演会や素晴らしい取組を行っている団体の発表会を催すことも検討しています。

(2) 人材を活かす仕組づくりについて

今ある人材を、学校教育や社会教育現場などにおいて大いに活用することが必要です。

現在、橋本市では、市民ボランティア登録を受け付ける際に、保護すべき個人情報と、公表しても構わない情報とに区分して整理していますが、今後は「より一層人材を活かす」視点に立ち、整理するだけでなく、活用しやすい登録方法を検討する必要があります。

また、ボランティア活動を通じて、支え、支えられ、互いに生き生きと学び合う輪が広がっていく生涯学習のまちを実現するためにも、すでにボランティア登録してくださっている市民だけでなく、新しいボランティアを発掘していく仕組づくりが早急の課題です。

さらに、必要に応じて、学校等と登録者・人材とを結びつけるコーディネーター等の養成・研修が必要です。

(3) 生涯学習推進の総合窓口について

文化を創り・守る主役は市民です。それをサポートする行政と市民を結び、また、市民と市民を結び・つなぐための仕掛けが必要です。それは、今の縦割り行政の中、行政の各事業の内容と関連を十分に把握し、市民からの様々な相談や要望に的確に対応する、かつ生涯学習推進に寄与する総合窓口です。

そして、生涯学習の推進には、養成された社会教育推進のリーダーやコーディネーター、橋本市市民ボランティア登録者等の活用が必要です。

2 子育てと学びの環境づくり

（１）子どもたちを育てる仕組づくりについて

子育てに悩む保護者への支援が大きな課題となっている中、橋本市においては一人で悩む保護者が少しでも減るように、地域での仲間づくりを目的とした事業・活動が多く行われています。

主なものとしては健康課の「乳児交流教室」「双子・三つ子を持つ親の交流会」、こども課の「子育て支援センター事業」（認定こども園内に設置）、各地区公民館の「乳幼児親子対象事業」とメンバー自主運営による「親子サークル」、そして、そのサークルの連携ネットワーク「子育てよもやま交流会」があります。また、子ども館・児童館の取組もあります。これらの他にも福祉課、社会福祉協議会、橋本市図書館、社会教育関係団体、民間団体等々、いろいろな立場から子育て支援の重要性を認識した事業や活動が行われています。近畿で子育てしやすいまちにランクインする所以であります。

このように、子育て中の保護者が選択できるほど豊富な事業が展開されていますが、これらの事業がそれぞれ独自に行われており、事業の重なりによる無駄、深まりに欠けるなどの問題点も見えます。

そこで、よりよい子育て支援を考えるに当たり、それぞれの事業間での交流とともに、各課の枠を越えた、また、行政・民間・市民などの枠を越えた地域ごとの子育て支援ネットワークの構築を図り、より深い・強固な支援体制をつくる必要があると考えます。

そして、子育て支援の中でも特に課題となっている基本的な生活習慣をつけさせることや家庭での道徳教育、情緒を育む教育などについて、保護者への情報提供や支援を検討する必要があります。

その一つとして、子どもへの対処の仕方を保護者がリアルタイムで話し合える雰囲気づくりや場の提供が求められています。

次に、学校教育についてですが、これまで家庭や地域の教育力を基盤にして成り立ってきた学校教育は、家庭・地域の教育力が低下する傾向にある中で、子どもが「知識・教養」を身につけ、「豊かな情操」「生きる力」を培うなどの学校教育本来の目的を実現することに専念できない状況にあります。

そこで、これまで市内3地域で実施してきた「共育コミュニティ」の取組の一層の拡充を図る必要があります。この事業は、地域の人が学校内外での子どもたちを見守る、授業の補助をするなどの活動に関わることにより、また、学校が地域の行事に参加・参画することにより、学校と地域の関係が密接になり、ともに子どもたちを育てることができると考えて取り組まれています。

また、地域においても子どもという縁を通して地域の人同士が新たにつながっていく、災

害が起きたときに助け合える、一人暮らしの高齢者に声掛け合い互いにいたわり合うようになれるなどの効果も期待されています。そのような地域で育まれた子どもは、ふるさと橋本を誇りに思い、この地に住みたいと願う大人に成長すると考えます。

より多くの人が「共育コミュニティ」の本来の目的を知り、地域も学校もしっかりと目的を意識し、互いに助け合い活動することが大切です。その核となるのが学校であり、公民館です。そして、学校と公民館のつながりをより強固に円滑にするためにはコーディネーターの存在を欠くことができないと思います。

加えて、そこに保護者のこれまで主体的に様々な取組を行ってきたパワーや乳幼児期サークルなどで培ったネットワークを生かすためにも、「共育コミュニティ」の組織への保護者（PTA 活動）の参入がスムーズにできる流れを作る必要があります。

現在、市内に4館ある子ども館・児童館の機能は、子どもたちが身近で自由に立ち寄れる心のよりどころとなっています。身近な居場所になっているという視点は特に重要と考えます。今後は、その機能を全市的に広げていくことが望まれます。

また、現在全小学校で行われている放課後子ども教室「ふれあいルーム」と連携して、放課後児童クラブ（学童保育）とともに、放課後の子どもの居場所づくりを一層推進していく必要があります。

さらに、休日や長期休業期間中についても子どもの居場所・学びの場づくりを一層充実させることを望みます。その際、学びの設備が整っている小学校の有効活用が大きな課題です。休日については、地域住民や保護者等の実施団体が学校施設を利用できる物的・人的な条件整備が必要です。長期休業期間中については、実施団体が教職員と連携を図り、それぞれの役割分担を明確化し、一時的な行事に終わるのではなく継続した取組となるよう工夫することが必要です。

（２）公民館の充実について

各地区公民館は、地域住民にとって身近な学習の場であると同時に、地域の人と人をつなぐ交流の場として親しまれています。そうした中、平成 26 年度に行われた各地区公民館での地域シンポジウムでは地域課題などについて話し合われました。今後、地域シンポジウムを継続的に実施し、そこでは意見を言える場、みんなで話し合う場（しゃべり場）、小中高校生の意見を聞く場にすることが求められています。そして、意見は何らかの形で地域や市の事業などに反映できる仕組みをつくるのが大切です。

多くの市民が参加して地域課題について考え、知恵を出し合うようなこうした取組は、市民の意識変化、「してもらうのが当然」の意識から自助意識への変化をもたらすことにつながり、地域での絆を深めることにつながります。公民館の果たす役割はますます重要となっています。

また、広報を充実させるための取組として、公民館報に加えホームページの充実が求められています。

中央公民館事業の市民大学いきいき学園など素晴らしい取組を行っています。更に、市民

が自分史を書いたり、子ども時代のことや伝統芸能を何らかの形で表現したりするなど、人生や地域の恵みを見つめなおす仕掛けを取り入れて進化し続けることを望みます。

（３）図書館の充実について

橋本市図書館、学校図書室、地区公民館図書室、子ども館図書室など、市内すべての図書館・室の蔵書をコンピュータでネットワーク管理し、ブックキー号の活用による集配により、多くの本が市民の身近にあるようにすることが大切です。

また、各図書館・室の蔵書の一層の充実を図るとともに、調べ学習に対応できるよう資料の体系的網羅的な配置が大切です。

さらに、そうした資料の活用をアドバイスできる専門性を持った司書の配置や職員の研修の保障、そしてそこに至る道筋として、こうした職員のつながりや学びあいの場が必要です。

加えて、本好きの一般市民がボランティアとして関わることができるよう、引き続き場を提供していくことも大切です。

３ 豊かな自然・文化・環境を生かす

（１）杉村公園の整備と活用について

杉村公園については、文化の薫り溢れる情緒豊かな公園になるように整備を図る必要があります。

生涯学習関連施設のうち、地域ごとの配置が必要なものを除いて、市内一か所の設置でよいものについては文化的施設として、利便性が非常によくなった杉村公園に設置することが望ましいと思います。そして、市民が企画して、市民を楽しませる文化的な様々な催しができる公園にすることが必要です。そのデザインには市民の参画が求められています。

また、他の公園においても、地域住民が積極的に関わって、親しみ溢れる情緒豊かな公園になるように整備を図り、守っていくことが大切です。

（２）伝統文化などを伝承する仕組づくりについて

平成 26 年秋、高野山金剛峯寺と高野口町大野をつなぐ「御番」という行事が途絶えてしまいました。紀伊名所図会にも記載された行事で、大師信仰や高野山のかつての栄華をよく伝える行事であっただけに残念です。他にも伊勢講や大師講、盆の行事なども、急速に伝承が途絶えようとしています。

橋本市には、高野山信仰の影響を色濃く残した行事、民俗が多くあり、これらをきちんと伝えていけば、将来、かけがえのない橋本市の宝となります。

こうした伝統文化を伝承していくことは、伝える人、伝えられる人両者にとって正に生涯学習です。

そして、地域の伝統文化を伝えていくことは、将来の橋本市民がこのまちを深く愛し、自尊意識を育んでくれることにつながります。

現在、伝統行事が行われているもの、途絶えてしまったもの、いずれにおいても今のうち

に資料として残す方策を検討することが求められています。

加えて、失われつつある文献資料や新たに発掘させる埋蔵文化財などを残す方策についても検討することが求められます。

（３）ＥＳＤの推進について

ＥＳＤ（Education for Sustainable Development）とは、「持続可能な開発のための教育」と言い、現在に生きる私たちすべてが、そしてその子孫たちがこの地球で生きていくことを困難にするような問題を予見し、その問題を解決するための学びを意味します。

ＥＳＤにおいて取り組むべき課題は多岐にわたります。例えばその一つに大量生産、大量消費、大量廃棄から、持続可能な社会の形成のために適量生産、適量消費、適量廃棄を「善」とするというようなパラダイムの転換があります。

ＥＳＤは私たちに、地球市民として地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み（think globally, act locally）、持続可能な社会づくりの担い手となるよう、その力量の向上と意識・行動の変革を求めています。それは、未来の社会を描き、その実現に向けた取組を実行できる人づくりとも言えます。

ＥＳＤは大人も子どもも、学校教育、社会教育、家庭教育のいずれにおいても取り組み、そして総合的に取り組むことが必要です。

本計画の策定に当たり、未来設計(市民育成)にＥＳＤの視点を組み入れた計画にしていくことが求められます。

（４）生涯スポーツの推進について

本計画を策定するに当たっては、平成 26 年 3 月に橋本市教育委員会が策定した「橋本市スポーツ推進計画」を基にして行う必要があります。

Ⅲ 資料

1 社会教育委員名簿

（橋本市生涯学習推進計画に向けた提言書作成に参画）

	氏 名	任期
1	佐藤 律子	平成14年4月～
2	瀬岡 佳史	平成24年4月～
3	土田 淳子	平成22年4月～
4	宮本 佳典	平成22年4月～
5	村田 和子	平成24年4月～
6	森口 佳幸	平成24年4月～
7	森田 登司子	平成24年4月～
8	和田 照子	平成24年4月～
9	大谷 憲裕	平成26年4月～
10	佐藤 昌吾	平成26年4月～
11	滝上 敏彦	平成26年4月～
12	澤村 優希	平成27年4月～
13	平家 利也	平成27年7月～
14	浦本 彰夫	平成22年4月～平成26年3月
15	面矢 元子	平成20年4月～平成26年3月
16	後藤 加壽恵	平成5年4月～平成26年3月
17	葛原 昌文	平成23年4月～平成26年3月
18	横谷 宣子	平成12年4月～平成26年3月
19	中尾 悦子	平成26年4月～平成27年3月

2 経過

- 25.6.7 平成25年度第1回社会教育委員会議
(生涯推進計画の予定と勉強会の出席依頼について)
- 25.7.5 第1回勉強会 村田先生を招いての生涯学習推進計画についての勉強会
- 25.9.4 第2回勉強会 プロジェクトメンバーと社会教育委員勉強会
(橋本市の地域福祉計画と海南市生涯学習計画について)
- 25.11.25 平成25年度第3回社会教育委員会議
(社会教育委員の策定委員会参画依頼と推進計画策定の進め方等について)
- 26.4.22 平成26年度第1回社会教育委員会議
(推進計画策定の経過等について)
- 26.6.6 平成26年度第2回社会教育委員会議
(市民アンケート案と地域シンポジウムの進捗状況について)
- 26.8.21 地域シンポジウム開催に伴うグループワークでのファシリテーター講習
- 26.9.6 地域シンポジウム(隅田地区公民館)実施
- 26.9.13 地域シンポジウム(高野口地区公民館)実施
- 26.9.20 地域シンポジウム(紀見北地区公民館)実施
- 26.10.7 地域シンポジウム(西部地区公民館)実施
- 26.10.16 平成26年度第3回社会教育委員会議
(地域シンポジウムの進捗状況について)
- 26.10.18 地域シンポジウム(橋本地区公民館)実施
- 26.11.6 平成26年度第4回社会教育委員会議
(社会教育委員として生涯学習推進計画の理念等の素案を作成し、提言することとを決定)
- 26.11.15 地域シンポジウム(学文路地区公民館)実施
- 26.11.22 地域シンポジウム(恋野地区公民館)実施
- 26.11.29 地域シンポジウム(紀見地区公民館)実施
- 27.1.28 平成26年度第5回社会教育委員会議
(各社会教育委員から意見交換)
- 27.2.16 平成26年度第6回社会教育委員会議
(各社会教育委員から意見交換)
- 27.2.27 有田市と生涯学習推進計画についての交流会
- 27.3.12 地域シンポジウム(ママ・パパのおしゃべり広場 中央公民館)実施
- 27.3.14 地域シンポジウム(ママ・パパのおしゃべり広場 きしかみ子ども館)実施
- 27.4.15 平成27年度第1回社会教育委員会議
(生涯学習推進計画の基本理念及び提言書について協議)
- 27.6.3 ESDセミナー実施
- 27.6.5 平成27年度第2回社会教育委員会議

（提言書について協議）

- 27.7.6 平成27年度第3回社会教育委員会議
（提言書について協議）
- 27.7.27 平成27年度第4回社会教育委員会議
（提言書について協議）
- 27.8.17 社会教育委員と市長の市政懇談会
- 27.10.5 平成27年度第5回社会教育委員会議
（提言書の決定）
- 27.11.24 教育委員会11月定例会議に報告

橋本市生涯学習推進計画の見直しに向けた提言書

令和 3 年 3 月 1 日
橋本市社会教育委員会議

阪神淡路大震災以降、各地で起きた自然災害を受けて、日本の人々は「人と人のつながり」ということを意識するようになりました。また、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、新たな「人と人のつながり方」を模索しています。今ほど、人と人が「Face to Face」で出会うことの大切さを実感することはありません。

こんな、今こそ、社会教育を通して、自分たちのことや周りのことを自分事としてとらえ、工夫をして地域でつながる行動を創り出していく必要があります。社会教育の担う役割を再認識し、市民も行政職員も連携・協働して、これからの持続可能な社会づくりや橋本市の未来を作る取組を進めていきたいと願い、ここに提言します。

1. 橋本市の現状と課題

現在、橋本市は、少子化による人口減少、急速な高齢化、そして、地域経済の縮小や地方財政の悪化、ひとり親家庭の増加などを背景とした貧困問題、地域の伝統行事などの担い手の減少、人と人のつながりの希薄化による社会的孤立の拡大等、様々な課題に直面しています。

今後、より多様で複雑化する課題と向き合いながら、一人一人がより良い豊かな人生を送ることができる持続可能な社会づくりを進めるためには、行政のみならず企業や大学団体、地域住民など様々な主体がそれぞれの立場から主体的に取り組むことが必要となります。

2. 橋本市の社会教育の方向性

人は生涯にわたる学習により、自己を高め、その学びを社会に活かすことで、より豊かな人生を送ることができるといわれています。すべての人が豊かな人生を送るためには、あらゆる機会にあらゆる場所で学習することができ、その成果を発揮できる社会を実現することが求められています。（教育基本法第3条「生涯学習の理念」より）

このような「生涯学習社会」を実現するために、今、社会教育はとても重要です。

社会教育とは、学びを通じて個人の成長（人づくり）を期するとともに他者と学びあい認め合うことで相互のつながりを形成（つながりづくり）していくものです。

他者との交流を通じて、新たな気付きや学びや活動への動機づけがさらに進み、より主体的な学びや活動へとつながっていく、このような学びと活動の循環が生まれると持続可能な社会が実現します。

今後は、住民の主体的な参画による持続可能な社会づくり、地域づくり（地域づくり）に向けて、社会教育の役割への期待は益々大きくなっています。

○橋本市には、現在 130 ほどの社会教育関係団体が、また、各公民館にはそれを超えるサークルが活動が続けています。それらは個々に違いがあっても自分たちの集まりを自分たちで運営しています。まさに小さな自治がここにはあります。それを支えているのが行政（教育委員会）や公民館等の社会教育施設であり、そこに携わる職員です。今後もより一層の継続した支援が必要です。その支援の一つの柱として、社会教育関係団体や公民館サークルがそれらの存在意義や担っている役割について考え、活動を見つめなおす機会をつくり、学びの成果を生かす活動へとつながる仕組みを作る必要があります。それは、私たち社会教育委員や社会教育関係職員の役割であると考えます。

○地域・学校・家庭が連携して地域の子どもたちを見守り、育んでいく、そうすることで地域も学校も家庭もが元気になり、地域全体が活性化していくという考えの「共育コミュニティ」と「コミュニティ・スクール」がすべての地域・学校で推進されています。この 2 つの仕組みが両輪となって推進する地域づくりの理念を、地域により浸透させていき、多様性を尊重して皆が認め合い、ゆるくつながりあえる地域をめざすことがたいせつです。

また、この仕組みを持続可能にするためには、理念を理解して活動・貢献する人材が生まれる基盤・仕組みを作っていくこと、また、多くの貢献や活躍の場を創出することが必要となります。

○豊かな暮らし、魅力ある暮らしとは、「文化度の高さ」による充実した暮らしのことと考えます。橋本市の文化度をあげるべく、芸術・文化面で活動してきた市民活動には素晴らしいものがあります。その活動の拠点が公民館等の社会教育施設であり、活動への市の支援があったからこそです。今後も継続した支援が不可欠であり、なお一層充実した暮らしに根付いた芸術振興が広がることが大切だと考えます。住民が心豊かでいきいきとした生活を送るとともに、各地域の住民の創意工夫に基づく文化あふれる地域をつくっていくことは、その地域に住みたくなくなるという魅力につながると考えます。

3. 公民館の役割と社会教育関係職員の充実

橋本市の社会教育を進めるうえで、公民館の果たすべき役割は大変大きいものがあります。

誰もが使える地域の拠点である公民館は、「集いの場」「学びの場」であり、「活動の場」「仲間づくりの場」でもあります。あらゆる世代の市民が立ち寄りやすく、居

心地の良い場であることが望ましいと考えます。また、集まる市民の学びの意欲を育み、主体的に関わる機会を創出して、生きがいをもって人生を送れる市民のお手伝いをしてもらいたいと思います。

そのためにも、公民館職員は、あらゆる世代へのアプローチを考え、地域課題や地域性、そこで暮らす市民の思いを探り、人の力を引き出すことができるファシリテート力・コーディネート力を備える必要があります。

公民館は、また、学習や活動の拠点というだけでなく、住民主体の地域づくり、持続可能な共生社会の構築に向けた取組の拠点としての役割も求められていると考えます。

そのためにも、公民館や生涯学習課には、社会教育主事(社会教育士)等の専門的な職員の継続的な配置が望ましいと考えます。

4. 社会教育関係団体の充実

橋本市には、130 ほどの社会教育団体があり、市の生涯学習を推進する上で大きな役割を担っており、各団体の活動がより活性化し、市や地域に貢献することが期待されています。

しかし、現状は、高齢化や固定化によるメンバーの減少など、活動・存続の困難さを抱えた団体も少なくありません。そこで、各団体の活動などをひろく知らせるために市のホームページに掲載し、各団体が活動の活性化を図るため、社会教育関係団体の発表会や交流会を社会教育委員会議主催で行ってきました。

今後も、社会教育関係団体が活動を活性化させ、市や地域の子どもたち・地域全体への貢献が行いやすい環境づくりが大切であると考えます。

そのためには、社会教育委員や社会教育関係職員は、連携して、社会教育関係団体の位置づけを明確にし、素晴らしい団体の活動を支援する仕組みを作る必要があります。

5. 社会教育施設の使用料（減免措置）に関する考え方

教育基本法第3条（生涯学習の理念）に「国民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」とあります。また、同第4条は（教育の機会均等）について書かれています。

また、第12条（社会教育）では「1. 個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。2. 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館その他の社会教育施設の設置、学校の施設の利用、学習の機会及び情報の提供その他の適切な方法によって社会教育の振興に努めなければならない。」すべての人の学習権の保障がここにうたわれています。年金生活の高齢者や、ひとりで暮らす大人が立ち寄れる公民館は、公共がすべての人のために用意している居場所でもあります。

この公共性の高い公民館等の使用料について、受益者負担の考え方は適合しないと考えられます。今、現在、使っている人と使っていない人がいますが、公民館等は市民全員のもので、すべての人に使う権利があります。

橋本市も例外に漏れず、少子高齢化の波の中にいます。そんな社会情勢の中にあって、「市民一人ひとりが一生涯にわたって、自己の人生を磨き、豊かな人生を送るとともに、まちづくりの主体者として育ち合う」（生涯学習推進計画）ことが益々大切な課題になっています。

この課題に対して、重要な役割を果たしているのが、サークルや社会教育関係団体です。

これらの組織は、学習・文化・スポーツ活動を通じて、自らの学びを深めるだけでなく、孤立しがちな市民の交流の場として、互いの心と心をつなぎ支え合い、共に育つ機会を創っています。

しかしながら、公民館等で未来を担う若者や子どもたちの活動参加が、少ない傾向にあります。これらの世代が、社会教育による学びを通して地域の課題やその解決方法を様々な世代の住民とともに実践的に学ぶことは、持続可能な地域運営に繋がるものと思われます。

10年後の橋本市を考えたとき、様々な世代で協働し、自治意識を高め、自らの課題は自分たちで解決していこうとする市民が育つことは大切なことです。

これらの活動拠点になるのが、公民館であり社会教育施設です。これらの施設が、市民に広く開かれ、いつでも、だれでも、自由に使えるように務めることは、益々重要になってきます。現在そして未来を見据えた時、公民館並びに社会教育施設の有効な活用について、一層の検討が必要です。

また、第2次橋本市長期総合計画の基本理念のひとつに、「充実した教育・学習機会があり、伝承と創造の精神と豊かな資質を持つ、次代につながる人材と文化が育つまちをめざします」とあります。文化やスポーツ、歴史・観光を守り、発展させていけるのは、そこに暮らす住民です。その住民を大切にした施策を、住民参画・市民協働で作る、進めていくためにも、生涯学習環境の充実に努めてほしいと考えます。

R2 年度 橋本市社会教育委員名簿

	氏 名	所 属 等	役職
1	大谷 憲裕	市文化協会	
2	岸田 昌章	NPO法人	
3	澤村 優希	子育て中の保護者	
4	滝上 敏彦	元小学校長	副議長
5	辻脇 昌義	橋本市校長会	
6	土田 淳子	放課後子ども教室コーディネーター	議長
7	平家 利也	商工関係者	
8	村田 和子	和歌山大学教授	
9	森口 佳幸	スポーツ推進委員	
10	森田 登司子	子育て中の保護者	
11	和田 照子	橋本市国際親善協会	

2 橋本市生涯学習推進計画策定委員会条例

(設置)

第1条 橋本市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、生涯学習推進に関する計画(以下「計画」という。)を策定するため、附属機関として橋本市生涯学習推進計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査審議し、答申するものとする。

- (1) 計画の策定及び見直しに関すること。
- (2) その他計画に関し教育委員会が特に必要と認める事項

(組織)

第3条 策定委員会は、15人以内で組織し、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱し、又は任命する。

- (1) 社会教育委員
- (2) 学識経験者
- (3) 学校教育関係者
- (4) 関係行政機関の職員

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から第2条に規定する答申をするまでの期間とする。

2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員)

第5条 委員会に次の役員を置く。

- (1) 委員長 1人
- (2) 副委員長 1人

2 役員は委員の互選により選出する。

(委員長及び副委員長の職務及び職務代理)

第6条 委員長及び副委員長の職務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 委員長は、委員会を代表し総括する。
- (2) 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

4 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(会議の公開等)

第8条 委員会の会議は、公開するものとする。ただし、委員長が必要と認める場合は、非

公開とすることができる。

(委任)

第 9 条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 橋本市生涯学習推進計画策定委員会設置要綱(平成 26 年橋本市教育委員会告示第 14 号。以下「旧要綱」という。)の規定により置かれた橋本市生涯学習推進計画策定委員会は、第 1 条の規定により置かれた委員会となり、同一性をもって存続するものとする。
- 3 この条例の施行の際現に旧要綱の規定により委嘱され、又は任命された橋本市生涯学習推進計画策定委員会の委員である者は、この条例の施行の日に、第 3 条の規定により、委員会の委員として委嘱され、又は任命されたものとみなす。

附則（令和 2 年 6 月 16 日条例第 37 号）

この条例は、公布の日から施行する。

3 橋本市生涯学習事業推進策定委員会名簿

橋本市生涯学習事業推進策定委員会名簿

平成28年3月29日現在

	氏 名	所 属
1	村田 和子	和歌山大学地域連携・生涯学習センター長 (社会教育委員)
2	佐藤 律子	社会教育委員会 議長
3	瀬岡 佳史	社会教育委員会 副議長
4	森口 佳幸	社会教育委員 (スポーツ推進委員)
5	佐藤 昌吾	社会教育委員 (市校長会代表)
6	石橋 章弘	橋本市健康福祉部長
7	上田 力也	橋本市企画経営室長
8	坂本 安弘	橋本市教育委員会教育次長兼中央公民館長
9	櫻井 康雄	橋本市教育委員会教育総務課長
10	辻脇 昌義	橋本市教育委員会学校教育課長
11	海堀 不二夫	橋本市文化スポーツ室長
12	恵阪 信一	橋本市教育委員会中央公民館長補佐

参画した委員

岡本 孝範	前橋本市教育委員会学校教育課長
阪辻 博文	前橋本市教育委員会中央公民館長
吉田 健司	前橋本市教育委員会教育総務課長
永岡 昌博	前橋本市教育委員会中央公民館長

生涯学習推進計画策定全体部会名簿

平成28年3月29日現在

	氏 名	所 属
1	大谷 憲裕	社会教育委員
2	佐藤 昌吾	社会教育委員
3	佐藤 律子	社会教育委員
4	澤村 優希	社会教育委員
5	瀬岡 佳史	社会教育委員
6	滝上 敏彦	社会教育委員
7	土田 淳子	社会教育委員
8	平家 利也	社会教育委員
9	宮本 佳典	社会教育委員
10	村田 和子	社会教育委員
11	森口 佳幸	社会教育委員
12	森田 登司子	社会教育委員
13	和田 照子	社会教育委員
14	辻脇 昌義	学校教育課長
15	海堀 不二夫	文化スポーツ室長
16	大岡 康之	文化スポーツ室長補佐
17	林 寛典	文化スポーツ室
18	佐藤 客美	中央公民館主事
19	藤田 ひとみ	紀見地区公民館長
20	後口 和子	学文路地区公民館主事
21	松山 江津子	隅田地区公民館長
22	阪辻 博文	橋本地区公民館長
23	山中 匡人	橋本地区公民館主事

24	山本 直子	紀見北地区公民館長
25	小田 泰正	紀見北地区公民館主事
26	田中 敦子	西部地区公民館主事
27	大居 満佐子	恋野地区公民館長
28	北浦 健司	高野口地区公民館長
29	宮井 利明	図書館長
30	山本 恵子	図書館長補佐
31	前田 和	きしかみ子ども館長兼名古屋児童館館長
32	中阪 恵子	はらだ子ども館長兼友愛児童館館長
33	山内 維久子	きしかみ子ども館児童厚生員
34	志保原 弘美	名古屋児童館児童厚生員
35	水林 正美	社会教育課長
36	中田 幸	社会教育課長補佐
37	岩坪 恭子	社会教育課教育支援係長
38	佐藤 貴仁	社会教育課

生涯学習推進計画策定委員会委員名簿（中間見直し時）

令和2年3月1日現在

	氏 名	所 属
1	村田 和子	和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹 生涯学習・リカレント教育推進室教授 （社会教育委員）
2	土田 淳子	社会教育委員会議 議長
3	滝上 敏彦	社会教育委員会議 副議長
4	森口 佳幸	社会教育委員（スポーツ推進委員）
5	辻脇 昌義	社会教育委員（市校長会代表）
6	吉田 健司	橋本市健康福祉部長
7	中岡 勝則	橋本市総合政策部政策企画課長
8	阪口 浩章	橋本市教育委員会教育部長
9	正林 寿和	橋本市教育委員会教育総務課長
10	森口 伸吾	橋本市教育委員会学校教育課長
11	深本 恵里	橋本市教育委員会中央公民館長

4 地域シンポジウム資料

場所	日程	テーマ	和歌山大学等	参加者数		
				市民	関係者	内 社会 教育 委員
隅田地区公民館	平成 26 年 9 月 6 日(土) 13:30～15:30	地域を語ろう ～子育てを地域全体で～	和歌山大学 地域連携・生涯学習センター：西川先生 隅田地区公民館乳幼児学級実行委員会 東浦 典子氏 橋本市役所保健師 坂口淑子氏 隅田中学校長 野崎尚登氏 地域ふれあいルームコーディネーター・社会教育委員 土田淳子氏	60	16	6
高野口地区公民館	9 月 13 日(土) 13:30～16:30	高野口を語ろう！ ～老いも若きも共に高野口の未来を語る～	和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田先生	41	18	7
紀見北地区公民館	9 月 20 日(土) 13:30～15:30	地域を語ろう ～読書活動を通じて地域の繋がりを考える～	和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田先生 本の会「コスモス」	23	16	4
西部地区公民館	10 月 7 日(火) 13:30～15:30	地域を語ろう ～みんなで考える地域の今後～	和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田先生 「古典に親しむ会」北岡 守氏	45	16	2
橋本地区公民館	10 月 18 日(土) 13:30～16:00	地域を語ろう ～地域で子どもの笑顔を育てよう！～	和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田先生 橋本東保育園園長 前谷 明子氏 橋本小 P T A 新谷 彰宏氏 池田清吉建具 池田 秀孝氏 学校ボランティア 槇野 史代氏	31	13	4
学文路地区公民館	11 月 15 日(土) 13:30～16:00	地域を語ろう ～地域と公民館の絆を考える～	和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田先生 コーディネーター：瀧本氏	53	9	2
恋野地区公民館	11 月 22 日(土) 13:30～16:00	地域を語ろう ～ええとこみんなで話そうよ～	和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田先生 澤村 優希氏（子育て奮闘中） 上田 ひとみ氏（元保護者） 山田 裕子氏（元公民館職員）	28	14	4
紀見地区公民館	11 月 29 日(土) 13:30～16:00	紀見を語ろう ～あなたの一言が地域を創る第 1 歩です～	和歌山大学 地域連携・生涯学習センター：西川先生	35	12	5
中央公民館	平成 27 年 3 月 12 日(木) 10:00～11:00	「楽しい子育てって？」 ～みんなで子育てについて話してみませんか？～	N P O 法人 エンジェルサポート アソシエーション 永見智子 先生	21 (託児 20)	23	2
きしかみ子ども館	3 月 14 日(土) 13:30～15:30	「楽しい子育てって？」 ～みんなで子育てについて話してみませんか？～	N P O 法人 エンジェルサポート アソシエーション 永見智子 先生	16 (託児 20)	30	4

353 名 167 名 40 名
合計 520 名

地域シンポジウム報告書（概要）

隅田地区シンポジウム	
日時	平成26年9月6日(土) 午後1時30分～午後3時30分
場所	隅田地区公民館 1階研修室
参加者	市民 60名（パネラー含む） 学校関係者：30名（隅田小学校、あやの台小学校、隅田中学校） 保護者：5名 地域住民：22名（区長、民生委員、母子推進員、ヘスティア等） その他：3名
	講師 和歌山大学 地域連帯・生涯学習センター 西川 一弘氏
ファシリテーター	社会教育委員 佐藤（律子）委員、瀬岡委員、土田委員、中尾委員、滝上委員、佐藤（昌吾）委員 教育委員会 阪辻、笠脇、山本、西本、前田、山内、伊藤
司会進行	松山、中田、北岡
テーマ	地域を語ろう～子育てを地域全体で～

シンポジウム進行次第

開会挨拶

教育長 小林 俊治

1部

『地域の現状報告』

- ・「公民館における子育て事業から」 隅田地区公民館乳幼児学級実行委員会 東浦 典子氏
- ・「いのちを育む授業から」 橋本市役所保健師 坂口淑子氏
- ・「学校で見る子どもの顔」 隅田中学校長 野崎尚登氏
- ・「地域で見る子どもの顔」

地域ふれあいルームコーディネーター・社会教育委員 土田淳子氏

1部の講評 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター 西川一弘氏



2部

ワークショップ

- ・どのような地域だったら子育てがしやすいと思いますか？
- ・より良い地域にするためにあなたが出来る事は何ですか？

「キーワード」

- 1班 かかわり、参加、親密さ
- 2班 『思いやりと勇気を持って～一歩ふみこんだしかけづくり～』
- 3班 人のつながりが密な地域～地域の挨拶 声かけから～
- 4班 隅田地区の歴史・文化の継承
- 5班 ～人と人をつなげる仕掛け作り～
⇒自分の出来ることから始めよう。
- 6班 生き生きと住み続ける
- 7班 みんなが顔見知り
- 8班 ・笑顔で挨拶・人と交流できる場作り・つながっていく。

- ・声かけ、見守り ・活動参加

2部の講評 生涯学習推進計画の必要性 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター 西川一弘氏

閉会挨拶 橋本市生涯学習推進計画策定委員会 副委員長 佐藤 律子



高野口地区シンポジウム	
日時	平成 26 年 9 月 13 日(土) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分
場所	高野口地区公民館 1 階研修室
参加者	市民 41 名 学校関係者：7 名（高野口小学校、応其小学校、高野口中学校、きのかわ支援学校、伊都高校） 生徒：8 名（高野口中学生会、伊都高校生徒会） 保護者：1 名 地域住民：23 名（公民館運営委員、自治会、福祉施設、公民館サークル等） その他：2 名
	講師 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏
ファシリテーター	社会教育委員 佐藤（律子）委員、瀬岡委員、森口委員、土田委員、森田委員、滝上委員、佐藤（昌吾）委員
	教育委員会 辻脇、阪辻、山本、松山、小田、西本、田中、伊藤、北岡、中田
テーマ	高野口を語ろう！～老いも若きも共に高野口の未来を語る～

シンポジウム進行次第

開会挨拶
教育長 小林 俊治

1 部
『公民館と学校との連携』
～子どもとおとなが育ちあうために、高野口を語ろう～
和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏

2 部（8 班）
バズセッション
「今、地域の生活の中で困っていること」
「より良い暮らしをするためには」
「自分たちが地域でできること」

2 部の講評
和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏

閉会挨拶
橋本市生涯学習推進計画策定委員会
副委員長 佐藤 律子



紀見北地区シンポジウム	
日時	平成26年9月20日(土) 午後1時30分～午後3時30分
場所	紀見北地区公民館 2階研修室
参加者	市民 23名(本の会コスモスも含む) 学校関係者: 3名(柱本幼稚園、たんぼぼ園、三石台幼稚園) 保護者: 2名 地域住民: 17名(本の会コスモス、ヘスティア、民生委員等)
	講師 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏
ファシリテーター	社会教育委員 佐藤(律子) 委員、瀬岡委員、土田委員、森口委員 教育委員会 阪辻、藤田、松山、前田、志保原、山内、宮井、海堀、伊藤、中田
司会進行	前川、北岡
テーマ	地域を語ろう～読書活動を通じて繋がりを考える～

シンポジウム進行次第

開会挨拶

教育長 小林 俊治

- 1部 ・本の会「コスモス」による実演
・『ボランティア活動』と地域の現状
地域の話を題材にした自作の大型紙芝居や、高齢者の施設などでも活動している手遊びの実演等を行い、地域での活動や取り組みを実演した。



1部の講評

和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏

2部 ワークショップ(6班)

- ・こうあって欲しいと思う地域はどのような姿ですか?
- ・より良い地域にするためにあなたが出来る事は何か?

「キーワード」

- A班 人と人とのつながり
- B班 つながる
- C班 つながり・支え合い・魅力や強みがある地域
- D班 自ら進んで関わる
- E班 地域の一員となって一歩踏み出す
- F班 地域・個人・公共が一つになる



2部の講評

和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏

閉会挨拶

橋本市生涯学習推進計画策定委員会 副委員長 佐藤 律子

西部地区シンポジウム	
日時	平成 26 年 10 月 7 日(火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
場所	西部地区公民館 1 階研修室
参加者	市民 45 名 学校関係者：2 名（西部小学校） 地域住民：43 名（古典サークル、区長、老人会等）
	講師 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏
ファシリテーター	社会教育委員 佐藤（律子）委員、土田委員
	教育委員会 阪辻、藤田、山本、前田、前川、志保原、山内、中阪、大岡、水林、北岡、佐藤
司会進行	西本、中田
テーマ	地域を語ろう～学習意欲の拠点づくり～

シンポジウム進行次第

開会挨拶

教育長 小林 俊治

- 1 部 ・公民館における学習活動「古典に親しむ会から」
公民館でのサークル活動から見えるもの。
地域の歴史を知り、地域での繋がりに広げる。

北岡 守氏

1 部の講評 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏



2 部

ワークショップ（8 班）

- ・こうあって欲しいと思う地域はどのような姿ですか？
- ・より良い地域にするためにあなたが出来る事は何か？

「キーワード」

- 1 班 ふれあい参加
- 2 班 つれもて参加 地域の輪（WA）（和）
- 3 班 会話・コミュニケーション！ 協力
- 4 班 心のバリアフリー
- 5 班 地域のコミュニティ活動を活発にする
- 6 班 楽しく笑顔で話せる地域
- 7 班 いつでも、どこでも学べる環境、安全・安心な地域
- 8 班 参加・活動 交流して仲よし



2 部の講評 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏

閉会挨拶

橋本市生涯学習推進計画策定委員会 副委員長 佐藤 律子

橋本地区シンポジウム	
日時	平成26年10月18日(土) 午後1時30分～午後4時00分
場所	橋本地区公民館 1階研修室
参加者	市民 31名(講演者含む) 学校関係者: 7名(橋本東保育園、橋本小学校、橋本中学校) 保護者: 3名 地域住民: 21名(区長、民生委員、母子推進員など)
	講師 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏
ファシリテーター	社会教育委員 佐藤(律子) 委員、土田委員、中尾委員、森口委員
	教育委員会 阪辻、藤田、松山、中阪、水林、北岡、佐藤
司会進行	山本、中田
テーマ	地域を語ろう～地域で子どもの笑顔を育てよう～

シンポジウム進行次第

開会挨拶

教育長 小林 俊治

1部

- ・「笑顔ってステキ」
橋本東保育園 園長 前谷 明子氏
- ・「PTA活動を通して」
橋本小PTA 新谷 彰宏氏
- ・「子どもの笑顔から見えるもの」
池田清吉建具 池田 秀孝氏
- ・「おはなしがとりもつ子どもの笑顔」
学校ボランティア 槇野 史代氏

1部の講評 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏



2部

ワークショップ (6班)

- ・子どもの笑顔があふれる地域はどのような姿ですか？
- ・より良い地域にするためにあなたが出来る事は何ですか？

「キーワード」

- 1班 地域の拠点を作って世代間コミュニケーションを図る
- 2班 コミュニケーション
- 3班 絆 KIZUNA
- 4班 区民運動会の開催
- 5班 家庭力と地域力
- 6班 地域ぐるみで安全 安心を

2部の講評 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長
村田 和子氏



閉会挨拶

橋本市生涯学習推進計画策定委員会 副委員長 佐藤 律子



学文路地区シンポジウム	
日時	平成26年11月15日(土) 午後1時30分～午後4時00分
場所	学文路地区公民館 2階研修室
参加者	市民 53名 学校関係者：5名（学文路小学校、学文路中学校） 生徒：9名（学文路中学校生徒会、橋本高校生徒） 保護者：8名 地域住民：29名（区長、民生委員、公民館運営委員、公民館サークル等） その他：2名（かつらぎ町）
	講師 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏
記録係	社会教育委員 宮本委員、滝上委員
	教育委員会 海堀、小田、佐藤、上原、阿武、中田
司会進行	粉生
テーマ	地域を語ろう～学文路の地域と地区公民館の絆を考える～

シンポジウム進行次第

学文路地区公民館の総合文化祭に合わせて実施。運営委員会も参画したシンポジウムとなった。

オープニング

橋本高校邦楽部による「全国大会優勝記念演奏会」

開会挨拶

パネルディスカッション

コーディネーターとして元校長先生で清水区長の瀧本氏が、地域住民、中学校生徒会、地域共育コミュニティ本部の役員（更生保護女性会、PTA等）等10名のパネリストに地域の自慢話や課題について話し合いを行った。



1部の講評 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏

2部 ワークショップ（8班）

パネリストが各班の進行役をして、プロジェクトメンバーがワークショップの記録した。KJ法は用いず活発な意見が多く出た。

「キーワード」

- 1班 地域の拠点＝公民館
- 2班 地域教育コミュニティー
- 3班 伝える
- 4班 世代をこえたつながり
- 5班 核家族 ～その影響～
- 6班 世代間の交流
- 7班 一歩踏み出す勇気
- 8班 良い意味でのおせっかい屋になろう



2部の講評 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏

閉会挨拶 社会教育課 中田

恋野地区シンポジウム	
日時	平成26年11月22日(土) 午後1時30分～午後4時00分
場所	恋野地区公民館 あじさいホール
参加者	市民 28名(講演者含む) 学校関係者: 2名(恋野小学校) 保護者: 4名 地域住民: 22名(区長、民生委員、公民館運営委員、公民館サークル等)
	講師 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏
記録係	社会教育委員 佐藤議長、土田委員、中尾委員、佐藤委員
	教育委員会 藤田、粉生、後口、岩坪、田中、水林、北岡、佐藤
司会進行	大居、中田
テーマ	地域を語ろう～ええとこみんなで話そうよ～

シンポジウム進行次第

開会挨拶

教育長 小林 俊治

- 1部 ・子育て奮闘中のママより 澤村 優希氏
・恋野小学校元PTAとして恋野地区について考えた 上田 ひとみ氏
・恋野地区公民館の元職員として 山田 裕子氏

1部の講評 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏

2部

ワークショップ(8班)

プロジェクトメンバーがワークショップの記録した。活発な意見が多く出た。

「キーワード」

- 1班 変化への対応(思いやりのある対応)
- 2班 三世代 伝える!!
- 3班 もう1歩前に 積極的、近からず遠からず
- 4班 人情に厚い ご近所のつながりが強い
- 5班 Uターン、Iターンが出来る地域
- 6班 平和やで～ 恋野へけーへんかあ
- 7班 子ども
- 8班 つながり きずな

2部の講評 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター長 村田 和子氏

閉会挨拶 社会教育課 中田



紀見地区シンポジウム	
日時	平成26年11月29日(土) 午後1時30分～午後4時00分
場所	紀見地区公民館 2階研修室
参加者	市民 35名 学校関係者：5名（城山台幼稚園、紀見小学校、城山小学校、境原小学校、紀見東中学校） 保護者：3名 地域住民：27名（区長、民生委員、保護司会、公民館サークル等）
	講師 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター 西川 一弘氏
記録係	社会教育委員 佐藤議長、土田委員、中尾委員、和田委員、佐藤委員 教育委員会 岩坪、大矢、水林、佐藤、中田
司会進行	藤田、北岡
テーマ	紀見を語ろう～あなたの一言が地域を創る第1歩です～

シンポジウム進行次第

開会挨拶

教育長 小林 俊治

1部 基調提案「紀見地域の事を語ろう～生涯学習推進計画とともに～」

講師 和歌山大学 地域連携・生涯学習センター 西川 一弘氏

2部 ワークショップ（8班）

- ・こうあってほしいと思う地域はどのような姿ですか？
- ・よりよい地域にするためにあなたが出来ることは何ですか？

KJ法でグループワーク（1時間）

各班からの発表

各班の「キーワード」

- 1班 つながりあえる地域
- 2班 縦のつながり→横にも広がって！つながりを
- 3班 「つながり」
- 4班 かけはし
- 5班 地域のふれあい
- 6班 ひとりひとりの気持ちで決まる
- 7班 進んでつながる おいちゃん おばちゃん
- 8班 いろんな世代でつながり隊！！

2部の講評

和歌山大学 地域連携・生涯学習センター 西川 一弘氏

閉会挨拶

橋本市生涯学習推進計画策定委員会 副委員長 佐藤 律子



中央公民館シンポジウム	
日時	平成27年3月12日(木) 午前10時～午前11時
場所	中央公民館 3階 第1研修室
参加者	子育てサークル よもやま交流会 21名（託児は約20名）
	講師 NPO法人 エンジェルサポートアソシエーション 永見 智子 先生 他2名
進行・記録係	社会教育委員 佐藤議長、土田委員
	仲氏（ほっとしたー）
	教育委員会 大居、藤田、山本、上田、前田、中阪、中田
託児等協力	教育委員会 後口、森田、山内、志保原、村尾、松岡、水林、佐藤、森、阿武
司会 進行	阪辻館長、丸井、北岡
テーマ	「楽しい子育てって？」 ～みんなで子育てについて話してみませんか？～

シンポジウム進行次第

司会

中央公民館長 阪辻

基調講話

NPO法人 エンジェルサポートアソシエーション

永見 智子 先生

「楽しい子育てって？」をテーマに楽しく、工夫して、将来の橋本市に必要な子育てについて講話がありました。



グループワーク

「子育てを楽しめていますか？」

「子育てしやすいちいきとは？」

「地域の子育てのためにあなたが出来る事は？」

「キーワード」

1班 今は楽しい、先は不安・・・

2班 変化する子育て環境

3班 みんなで役員

4班 つながり

5班 ポジティブ↑UP子育て！



閉会挨拶

社会教育委員会議議長 佐藤律子



（託児も実施しました）

こども館・児童館シンポジウム	
日時	平成 27 年 3 月 14 日(土) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
場所	きしかみこども館 1 階大集会室
参加者	16 名（託児希望の幼児が約 20 名）
	講師 NPO 法人 エンジェルサポートアソシエーション 永見 智子 先生 他 2 名
進行・記録係	社会教育委員 佐藤議長、土田委員、滝上委員、佐藤委員
	健康課 坂口係長、阪口氏、家庭児童相談員 和田氏、野田氏
	教育委員会 水林、西本、山本、岩坪、南出、中野
託児等協力	教育委員会 阪辻、小田、山上、神田、山内、志保原、村尾、武島、中田、佐藤、上原、阿武、森
司会進行	前田、中阪、北岡
テーマ	「楽しい子育てって？」 ～みんなで子育てについて話してみませんか？～

シンポジウム進行次第

はじめに
きしかみ子ども館長 前田

1 部 簡単工作『キューブBOX』
手作りをしながら、会話も弾む。

挨拶
教育長 小林 俊治

2 部
基調講話 NPO 法人 エンジェルサポートアソシエーション 永見 智子 先生

「楽しい子育てって？」をテーマに楽しく、工夫して、将来の橋本市に必要な子育てについて講話がありました。

グループワーク
「子育てを楽しめていますか？」
「子育てしやすいちいきとは？」
「地域の子育てのためにあなたが出来る事は？」
「キーワード」

- 1 班 3 才児の居場所
(遊び場所)
- 2 班 まきこむ
- 3 班 関わり・つながり
- 4 班 子供が集える場所
(紀見北地区)
横のつながり



閉会挨拶
社会教育委員会議議長 佐藤律子

(託児も実施しました)

5 市民アンケートの集計

生涯学習に関する市民アンケート調査結果報告

(1) アンケート調査概要

■目的

本市における生涯学習活動の充実を図るための計画である「橋本市生涯学習推進計画」(平成28年度から令和7年度)の中間見直しにあたって、生涯学習に対する実態や生涯学習の事業に関するニーズ等の変化を把握することを目的に実施した。

■設計

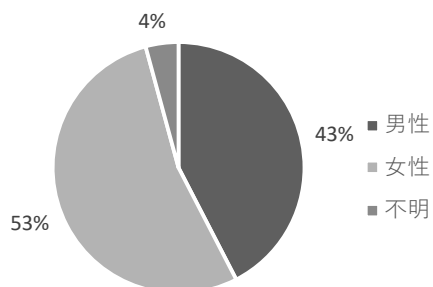
- ①調査地域: 橋本市全域
- ②調査対象者: 橋本市在住の20歳以上の方2,000人
- ③抽出方法: 住民基本台帳をもとに無作為抽出(校区別人口割・年代別均等割)
- ④調査方法: 郵送配布・郵送回収
- ⑤調査期間: 令和2年9月16日(水)～令和2年10月2日(金)

■配布回収状況

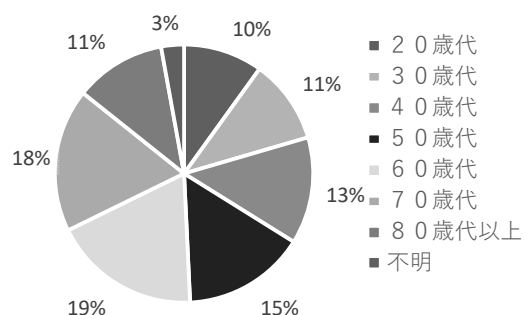
配布	2000 件	
回収	806 件	
回収率	40.3 %	※H26=34.9%

■属性

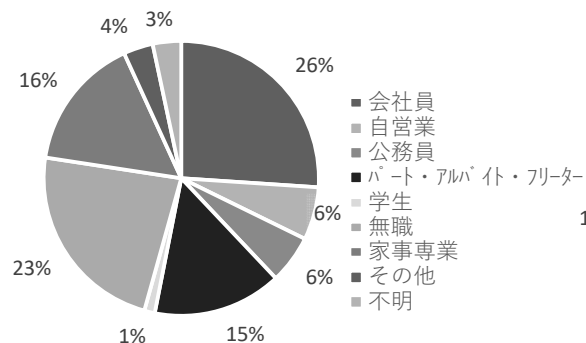
1. 性別



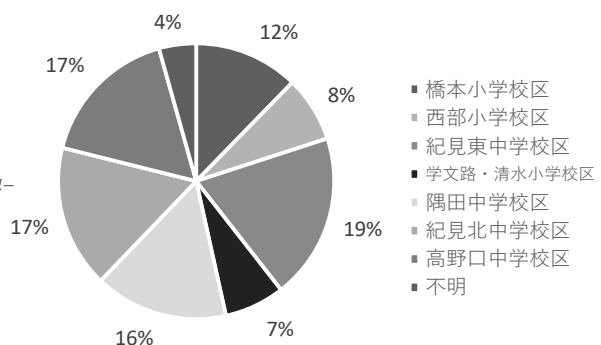
2. 年齢



3. 職業



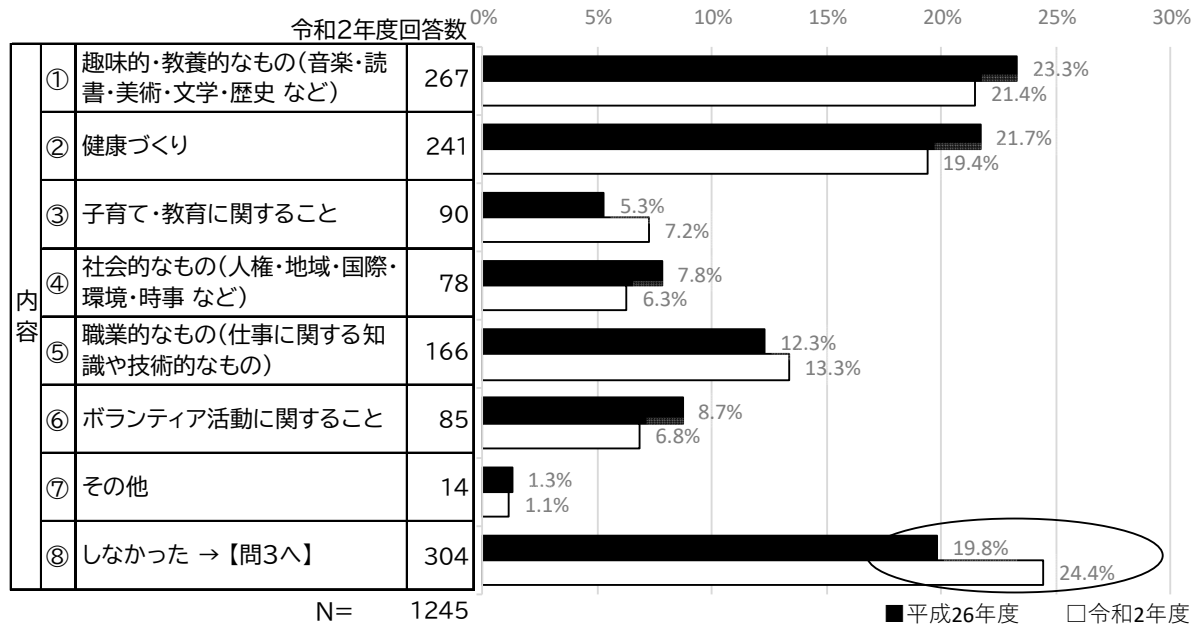
4. 住所(中学校区)



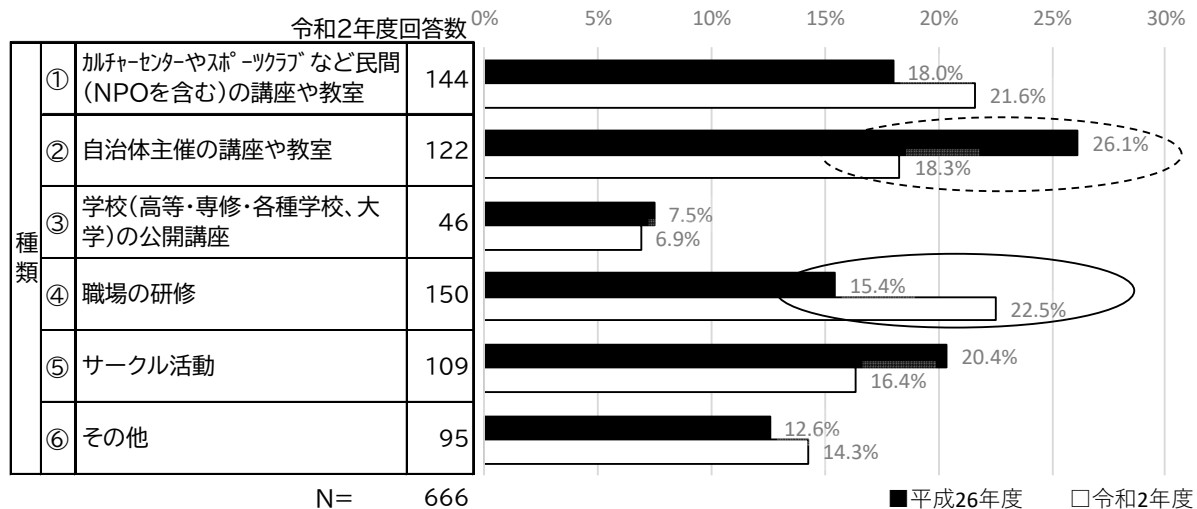
(2) アンケート結果(前回との比較)

■生涯学習活動の現状

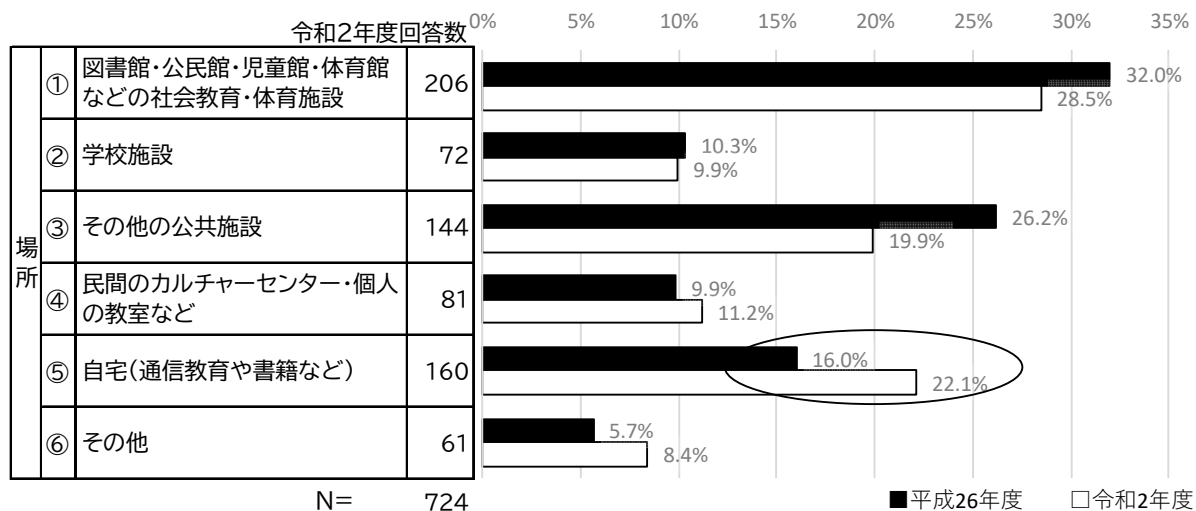
問1 あなたが行った「生涯学習」に関して、この1年間であてはまるものは次のどれですか。(主なものを3つまでに○)



・生涯学習を「しなかった」が前回より4.6%増え、最も高い割合となった。

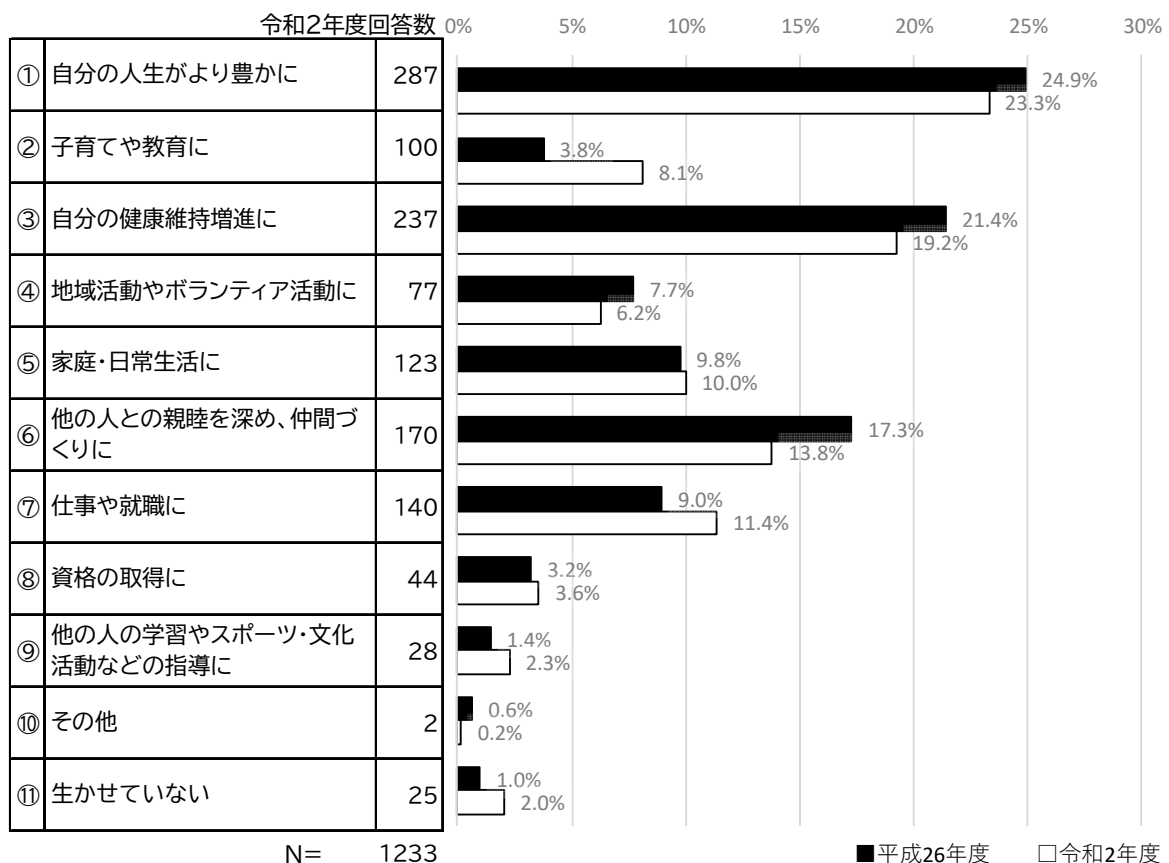


・前回に比べ、カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間講座や教室、職場の研修の割合が増えた一方、自治体主催の講座が減少した。



- ・ 前回調査同様に、図書館・公民館・児童館・体育館などの社会教育・体育施設が、生涯学習を行う場所として高い割合であり、重要となっている。
- ・ 前回調査に比べ、自宅(通信教育や書籍など)の割合が増加している。新型コロナウイルスの影響によることも考えられる。

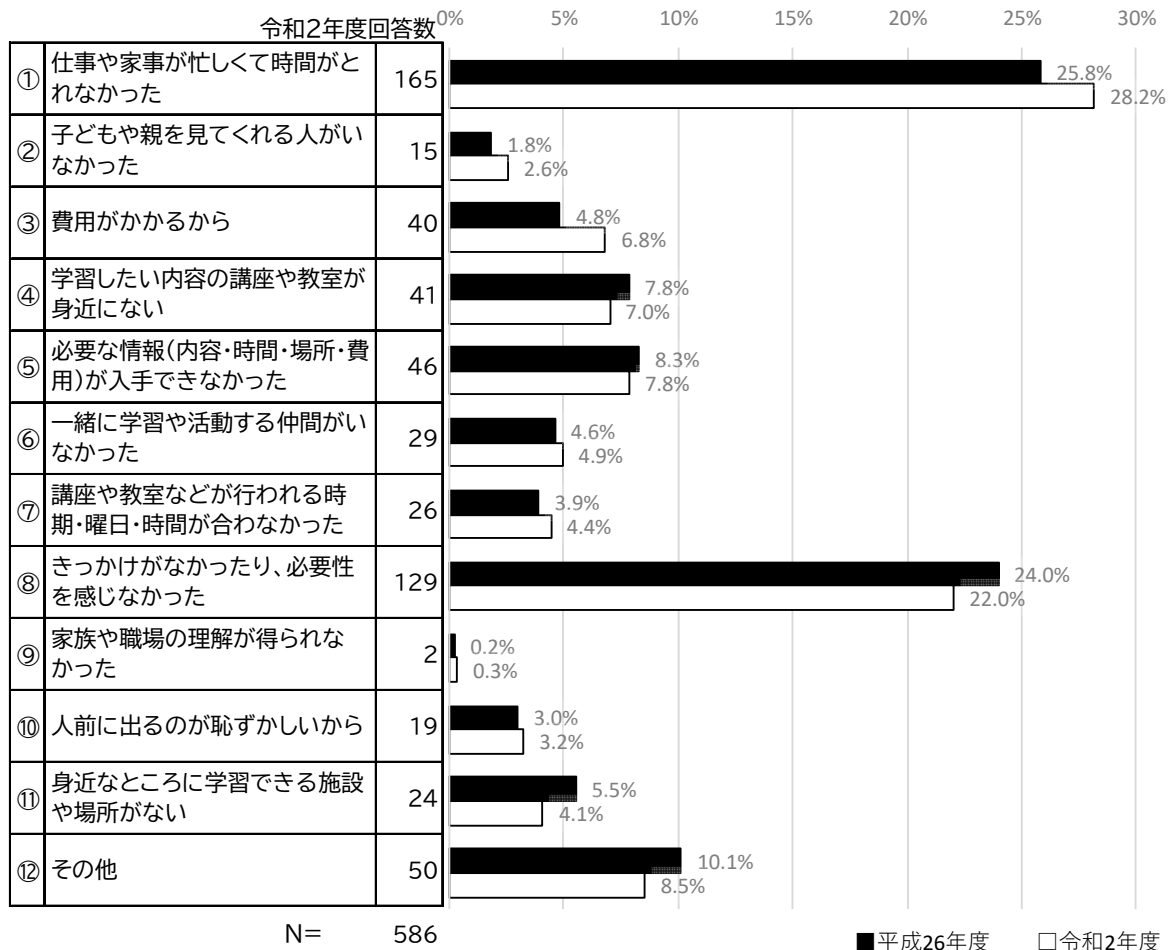
問2 あなたは、「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように生かしていますか。(主なもの3つまでに○)



- ・ 前回調査同様に、人生をより豊かにすること、健康を増進することに学習活動をつなげている。

■学習活動のさまたげとなる要因

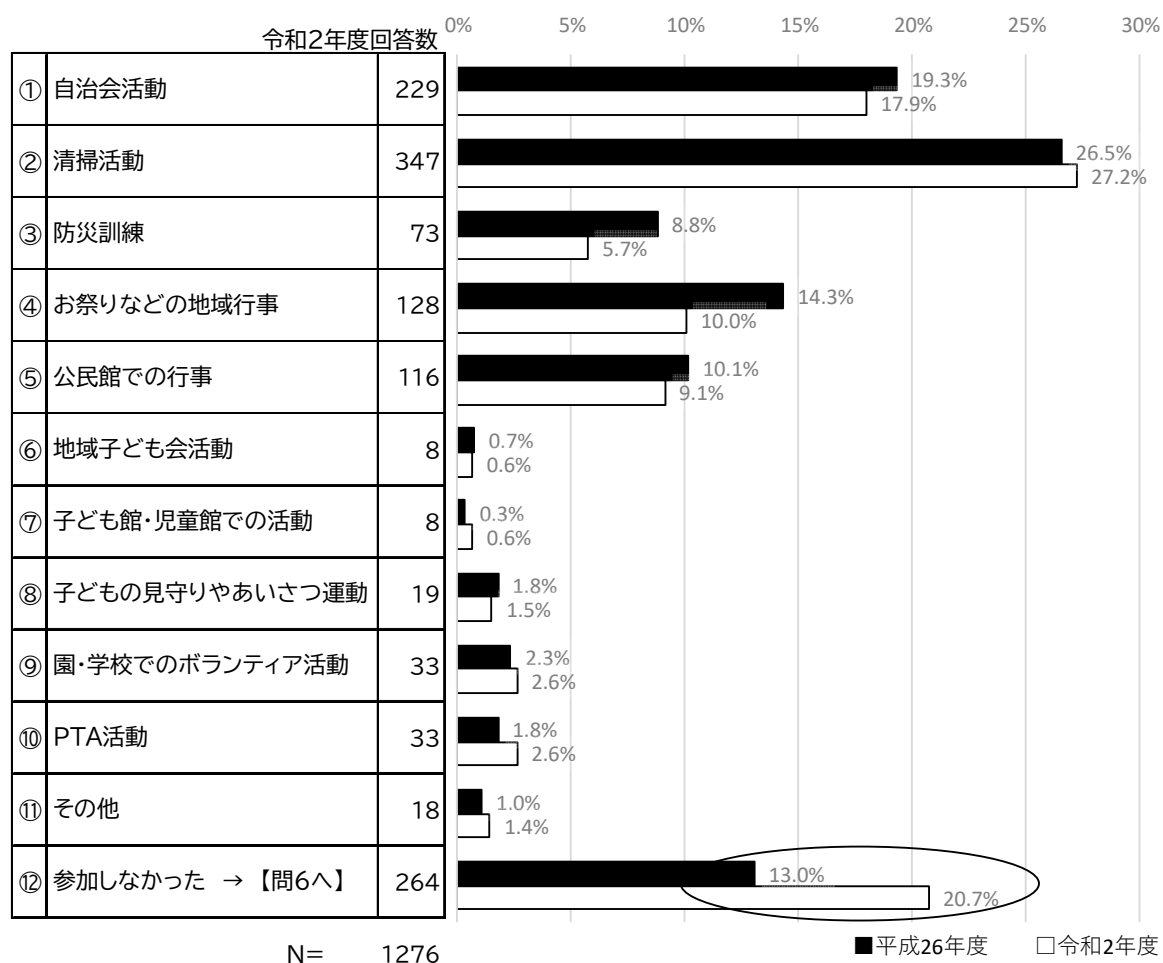
問3 この1年間で「生涯学習」をしなかった理由は何ですか。(主なものを3つまでに○)



- ・ 前回調査同様に、時間がとれない、きっかけや必要性を感じないの理由が、全体の約半分となり、突出している。
- ・ その他について、主に身体の不自由(高齢で具合が悪い)、新型コロナウイルスのためといった理由がある。

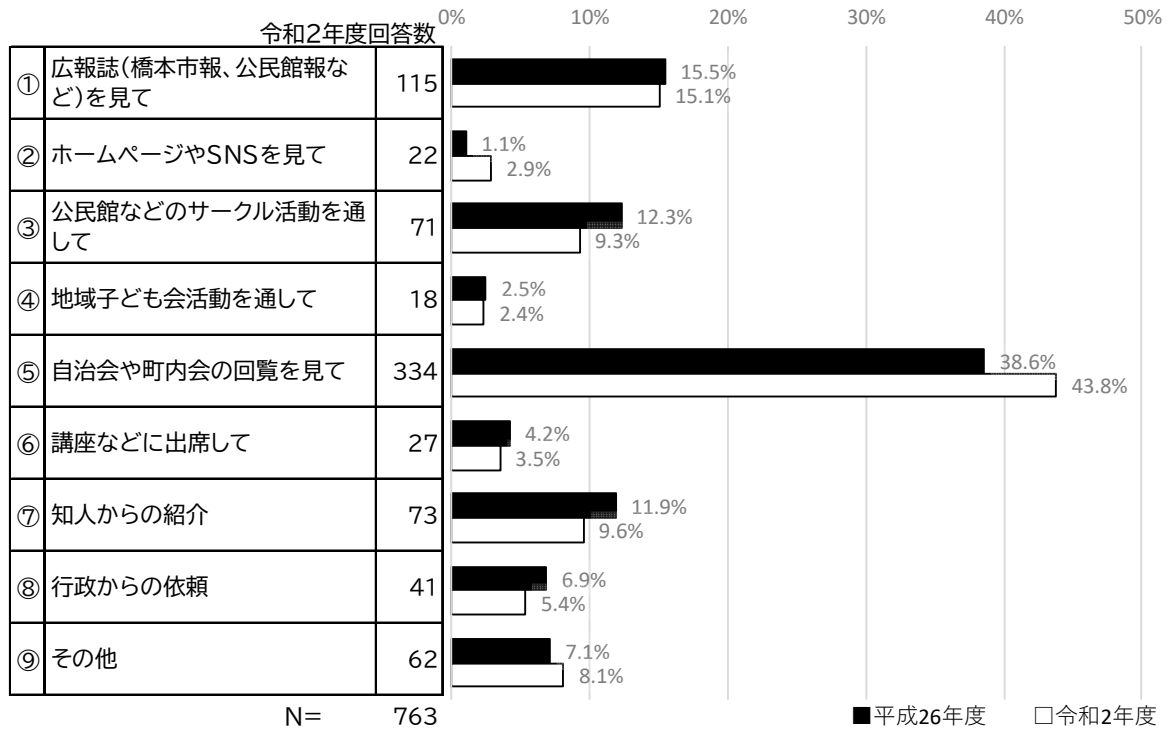
■地域活動の参加状況

問4 あなたはこの1年間で、地域のどのような活動に参加しましたか。(主なもの3つまでに○)



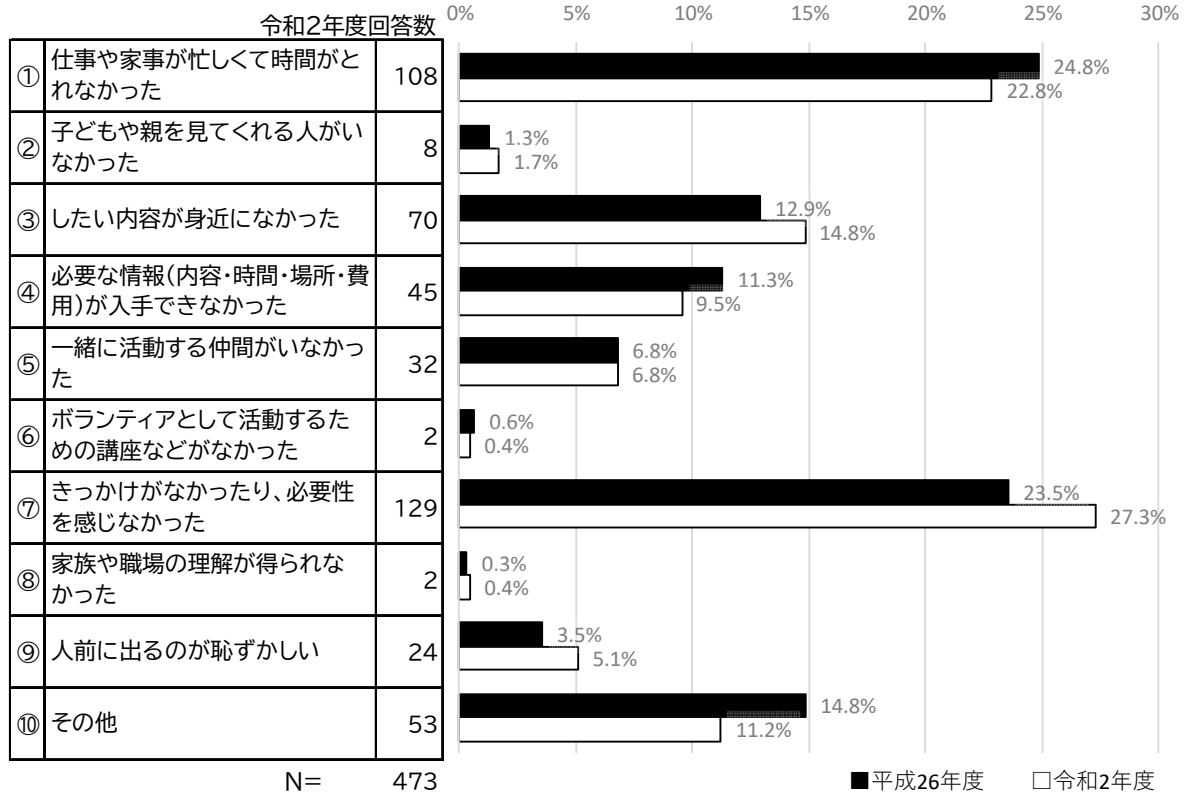
- ・ 前回調査同様、自治体活動や清掃活動が多くを占める。
- ・ 前回に比べ、「参加しなかった」割合が7.7%増加している。

問5 地域での活動に参加した「きっかけ」は何ですか。(主なものを3つまでに○)



・自治会や町内会の回覧、広報誌が、地域活動への参加のきっかけになっている。

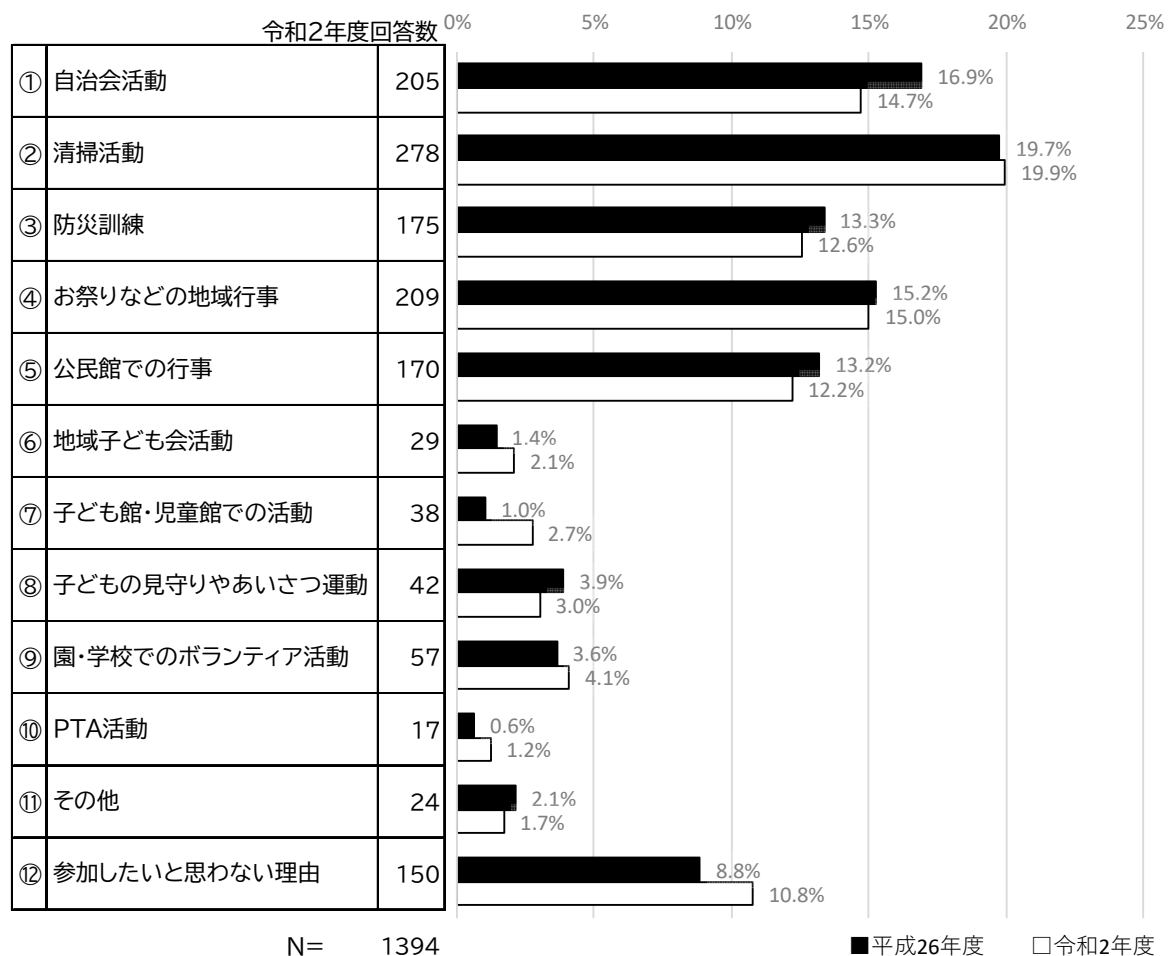
問6 この1年間で地域での活動に参加しなかった理由は何ですか。(主なものを3つまでに○)



・生涯学習をしない理由と同様、忙しくて時間がとれない、きっかけや必要性を感じないが突出している。

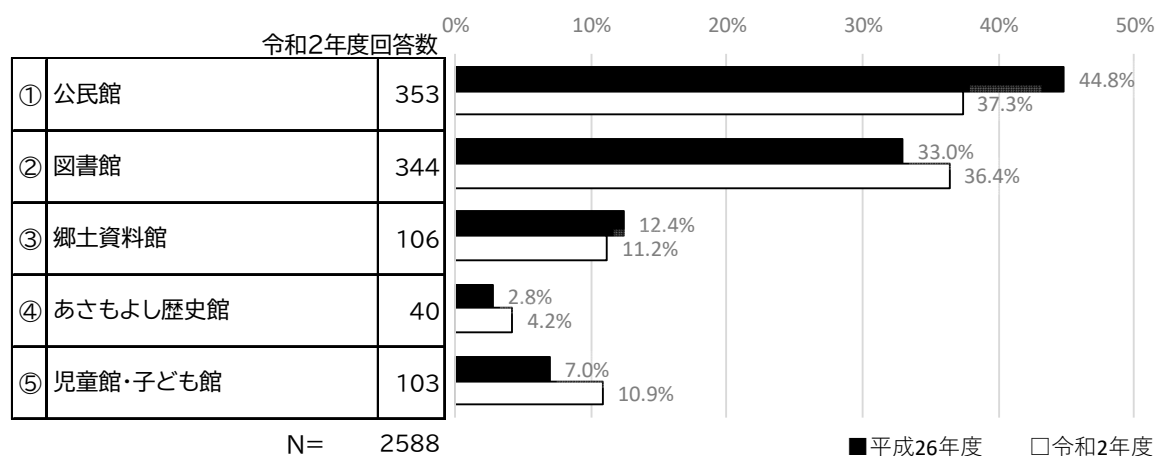
■今後の地域活動

問7 今後、地域のどのような活動に参加したいと思いますか。(主なものを3つまでに○)

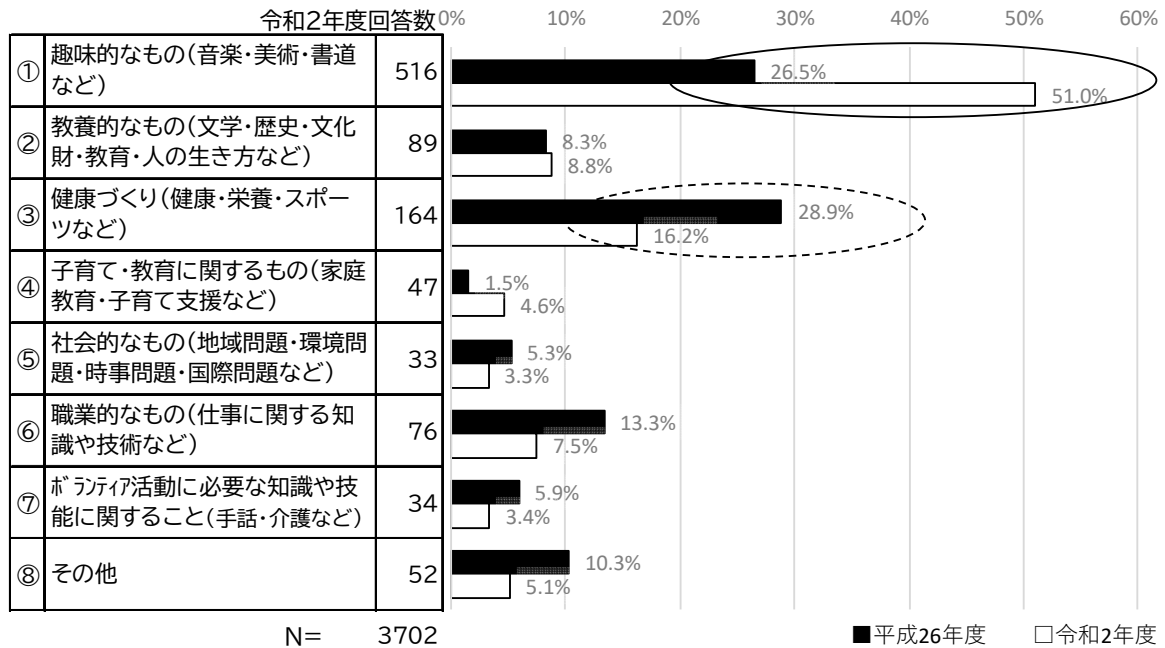


■生涯学習関連施設の利用

問8 市の生涯学習関連(社会教育)施設を利用したことがありますか。(グラフはあると回答した方のみ)



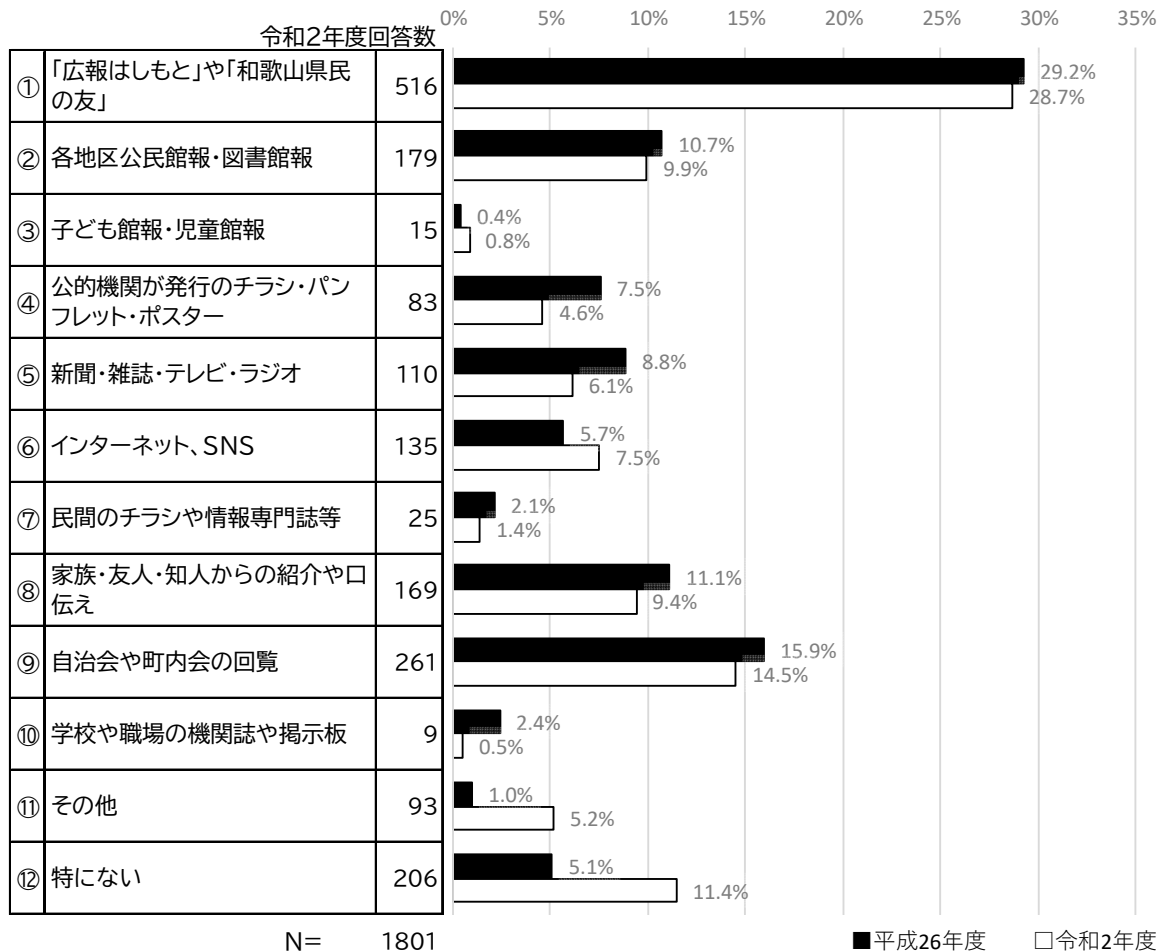
問9 どのような教室、講座、展示等があれば生涯学習関連(社会教育)施設を利用したいと思いますか。



・ 前回調査と比べて、趣味的なものが2倍近くになった一方、健康づくりについては、大幅に減少した。

■学習情報

問10 あなたは、生涯学習に関する情報をどのように得ていますか。(主なものを3つまでに○)



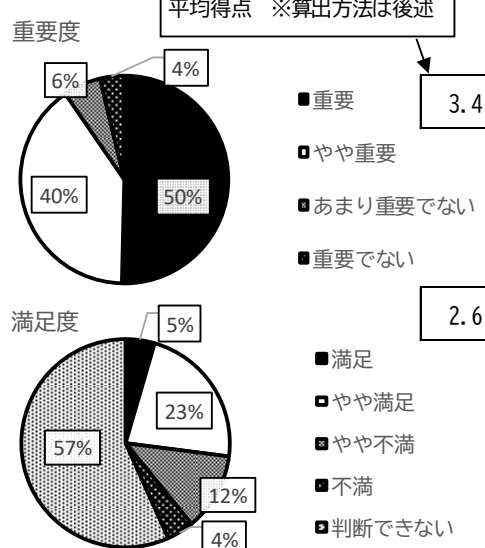
■重要度・満足度

問12 生涯学習の重要度・満足度について

「判断できない」を除いた回答割合

令和2年度回答数					
共育コミュニティの推進(学校・家庭・地域が一体となって地域の活性化を推進すること)	重要度	1	重要	336	50%
		2	やや重要	267	40%
		3	あまり重要でない	39	6%
		4	重要でない	25	4%
	満足度	5	満足	31	5%
		6	やや満足	155	23%
		7	やや不満	83	12%
		8	不満	29	4%
		9	判断できない	390	57%

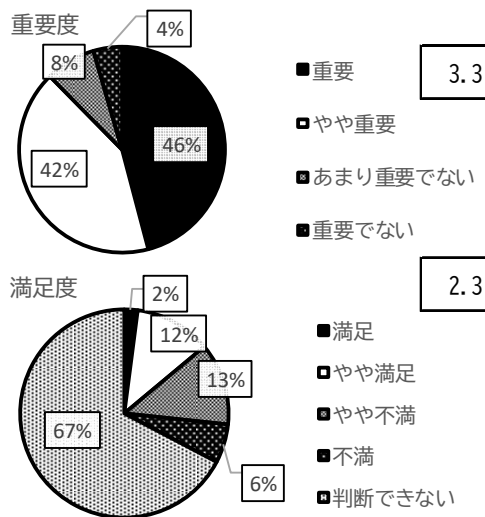
重要度計 667
満足度計 688



満足度については、行っていないもの、利用していないものは「判断できない」として回答。

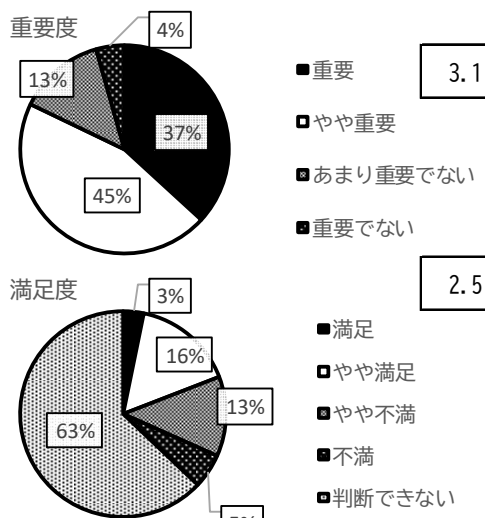
ESDの推進(持続可能な社会づくりの担い手を育てるための教育)	重要度	1	重要	297	46%
		2	やや重要	270	42%
		3	あまり重要でない	51	8%
		4	重要でない	29	4%
	満足度	5	満足	14	2%
		6	やや満足	81	12%
		7	やや不満	87	13%
		8	不満	41	6%
		9	判断できない	459	67%

重要度計 647
満足度計 682



地域をつくる話し合いの場づくりの推進	重要度	1	重要	243	37%
		2	やや重要	299	45%
		3	あまり重要でない	89	13%
		4	重要でない	29	4%
	満足度	5	満足	22	3%
		6	やや満足	109	16%
		7	やや不満	86	13%
		8	不満	37	5%
		9	判断できない	431	63%

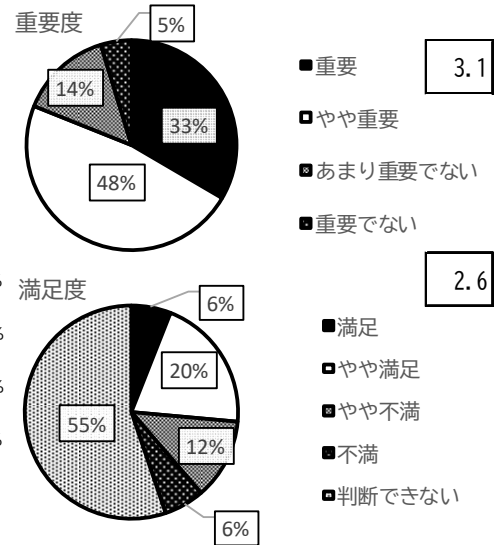
重要度計 660
満足度計 685



施設でのサービスの充実(講座や教室の充実、開館時間の拡大など)	重要度	1	重要	219	33%
		2	やや重要	312	48%
		3	あまり重要でない	93	14%
		4	重要でない	31	5%
	満足度	5	満足	41	6%
		6	やや満足	140	20%
		7	やや不満	84	12%
		8	不満	42	6%
		9	判断できない	378	55%

重要度計 655

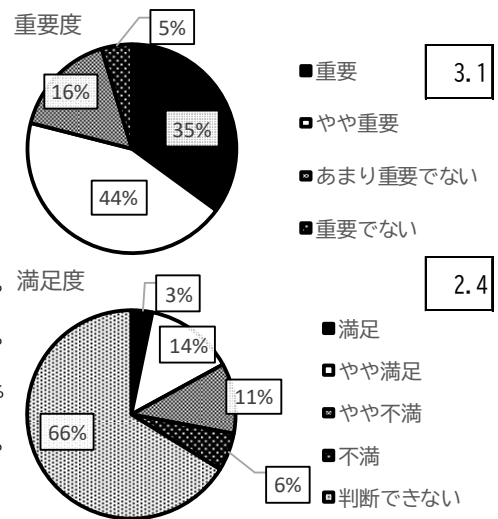
満足度計 685



生涯学習の専門職員(社会教育主事、児童厚生員、司書)などの育成・配置	重要度	1	重要	225	35%
		2	やや重要	282	44%
		3	あまり重要でない	105	16%
		4	重要でない	30	5%
	満足度	5	満足	22	3%
		6	やや満足	94	14%
		7	やや不満	74	11%
		8	不満	40	6%
		9	判断できない	450	66%

重要度計 642

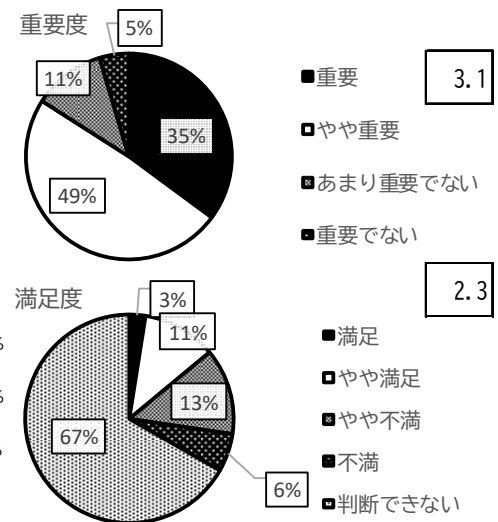
満足度計 680



生涯学習を支援する地域の人材育成	重要度	1	重要	229	35%
		2	やや重要	319	49%
		3	あまり重要でない	74	11%
		4	重要でない	30	5%
	満足度	5	満足	17	3%
		6	やや満足	78	11%
		7	やや不満	91	13%
		8	不満	40	6%
		9	判断できない	454	67%

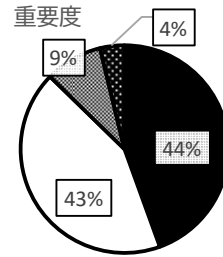
重要度計 652

満足度計 680

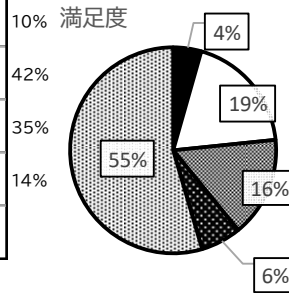


生涯学習に関する情報を得やすくすること	重要度	1	重要	294	44%
		2	やや重要	283	43%
		3	あまり重要でない	59	9%
		4	重要でない	25	4%
	満足度	5	満足	30	4%
		6	やや満足	129	19%
		7	やや不満	107	16%
		8	不満	43	6%
		9	判断できない	371	55%

重要度計 661
満足度計 680



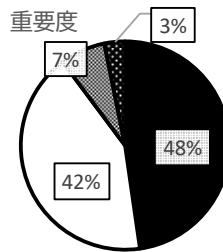
■重要 3.3
□やや重要
×あまり重要でない
■重要でない



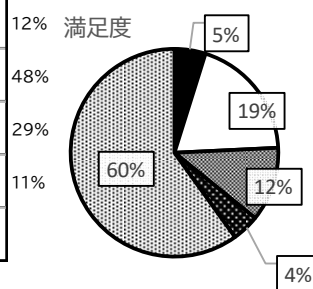
2.5
■満足
□やや満足
×やや不満
■不満
□判断できない

子どもの教育にかかわって、学校と地域との連携や協力を深めていくこと	重要度	1	重要	313	48%
		2	やや重要	276	42%
		3	あまり重要でない	46	7%
		4	重要でない	21	3%
	満足度	5	満足	33	5%
		6	やや満足	132	19%
		7	やや不満	79	12%
		8	不満	29	4%
		9	判断できない	408	60%

重要度計 656
満足度計 681



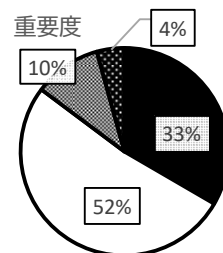
■重要 3.3
□やや重要
×あまり重要でない
■重要でない



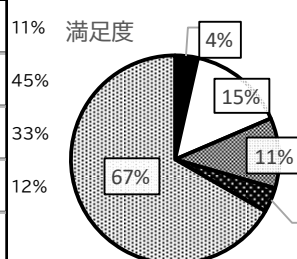
2.6
■満足
□やや満足
×やや不満
■不満
□判断できない

社会教育団体、青少年団体などのボランティア活動を活発にさせたり、その活動を支援すること	重要度	1	重要	217	33%
		2	やや重要	337	52%
		3	あまり重要でない	68	10%
		4	重要でない	28	4%
	満足度	5	満足	24	4%
		6	やや満足	102	15%
		7	やや不満	74	11%
		8	不満	26	4%
		9	判断できない	453	67%

重要度計 650
満足度計 679



■重要 3.1
□やや重要
×あまり重要でない
■重要でない

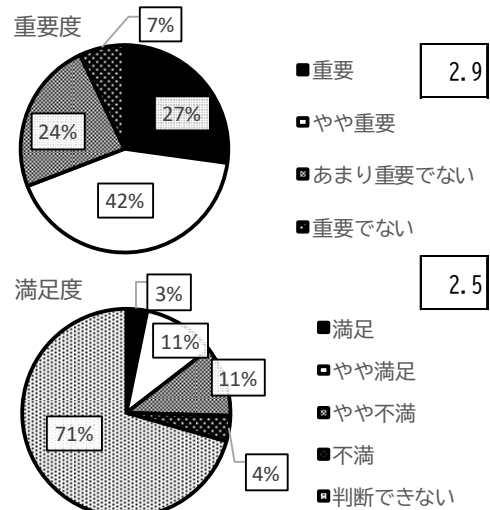


2.5
■満足
□やや満足
×やや不満
■不満
□判断できない

生涯学習を通じて身につけた成果やその成果を生かした活動を評価すること	重要度	1	重要	178	27%
		2	やや重要	275	42%
		3	あまり重要でない	156	24%
		4	重要でない	46	7%
	満足度	5	満足	22	3%
		6	やや満足	77	11%
		7	やや不満	74	11%
		8	不満	27	4%
		9	判断できない	480	71%

重要度計 655

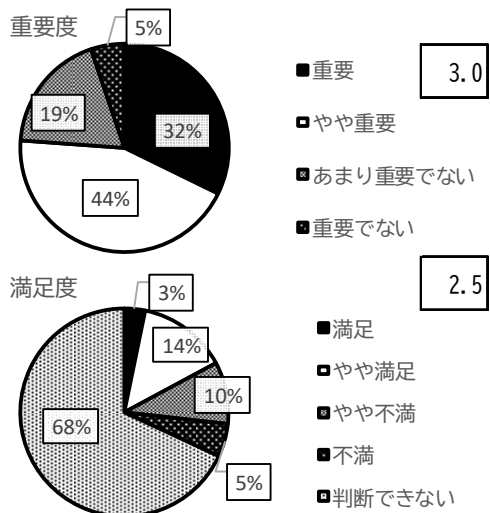
満足度計 680



郷土の文化財を活用すること	重要度	1	重要	211	32%
		2	やや重要	287	44%
		3	あまり重要でない	122	19%
		4	重要でない	34	5%
	満足度	5	満足	22	3%
		6	やや満足	95	14%
		7	やや不満	66	10%
		8	不満	35	5%
		9	判断できない	465	68%

重要度計 654

満足度計 683



※平均得点

重要度 重要=4点、やや重要=3点、あまり重要でない=2点、重要でない=1点として得点化して算出

満足度 満足=4点、やや満足=3点、やや不満=2点、不満=1点として得点化して算出(判断できないは除外)

■平均得点一覧

項 目	重要度	満足度
① 共生コミュニティの推進(学校・家庭・地域が一体となって地域の活性化を推進すること)	3.4	2.6
② ESDの推進(持続可能な社会づくりの担い手を育てるための教育)	3.3	2.3
③ 地域をつくる話し合いの場づくりの推進	3.1	2.5
④ 施設でのサービスの充実(講座や教室の充実、開館時間の拡大など)	3.1	2.6
⑤ 生涯学習の専門職員(社会教育主事、児童厚生員、司書)などの育成・配置	3.1	2.4
⑥ 生涯学習を支援する地域の人材育成	3.1	2.3
⑦ 生涯学習に関する情報を得やすくすること	3.3	2.5
⑧ 子どもの教育にかかわって、学校と地域との連携や協力を深めていくこと	3.3	2.6
⑨ 社会教育団体、青少年団体などのボランティア活動を活発にさせたり、その活動を支援すること	3.1	2.5
⑩ 生涯学習を通じて身につけた成果やその成果を生かした活動を評価すること	2.9	2.5
⑪ 郷土の文化財を活用すること	3.0	2.5

・ 重要度・満足度とも突出して高いもの、低いものはないが、①については総じて高い値を示している。

6 策定経過

- H21.12 平成 21 年 12 月市議会定例会にて土井議員より生涯学習推進計画についての一般質問
25. 3 平成 25 年 3 月市議会定例会にて土井議員より生涯学習推進計画の進捗状況についての一般質問
25. 4.23 和歌山大村田先生と打ち合せ
25. 4.25 公民館長会で生涯学習推進計画の説明
25. 6. 1 プロジェクトチーム員の任命
25. 7. 5 第 1 回勉強会 村田先生を招いての生涯学習推進計画についての勉強会
25. 9. 2 公民館 もっとみんなで つながりたい ” みんなの声から考える～
25. 9. 4 第 2 回勉強会 PJ&社教委員勉強会（地域福祉計画 海南市生涯学習計画）
25. 9.26 PJ 第 1 回会議
- 25.10.2、3 公民館職員による社会教育委員答申の勉強会
- 25.10.17 PJ 第 2 回会議（柱としての基本方針と主要施策について）
- 25.11.25 社会教育委員会会議（推進計画策定の進め方等について）
- 25.12. 2 橋本市 もっと知りたい つながり隊 ～地域課題を探る～
- 25.12.12 PJ 第 3 回会議 文化会館 4-7（部会メンバー構成・具体的施策・アンケート案）
26. 1. 9 第 1 回全体部会会議（顔合わせ 経緯説明 主要施策確認・アンケート案要請）
26. 1.17 地域づくり部会会議
26. 3. 5 第 2 回全体部会会議（村田先生の講評等）
26. 3.19 PJ 第 4 回会議
26. 3.19 公民館長会議（シンポジウムについての要請）
26. 4.22 第 3 回全体部会会議（平成 25 年度のまとめ、アンケート及びシンポジウムについての協議）
26. 4.23 公民館長会議（シンポジウムについての要請）
26. 4.30 教育委員会会議で橋本市生涯学習推進計画策定委員会の設置
26. 5.14 橋本市生涯学習推進計画策定委員会（第 1 回）
26. 5.16 橋本地区公民館シンポジウムについて協議
橋中 中西教頭、橋小 南校長、橋公 山本館長、山中主事と打ち合せ
26. 5.22 西部地区公民館シンポジウムについての協議 西本館長と打ち合せ
26. 5.23 橋本地区公民館シンポジウムについての協議
橋中 辻校長、橋小 南校長、橋公 山本館長と打ち合せ
26. 6.10 西部地区公民館のシンポジウムについての協議
26. 6.27 橋本市生涯学習推進計画策定委員会（第 2 回）
26. 7. 8 公民館長会議（シンポジウムについての内容確認・8 月広報）
26. 7.31 第 4 回全体部会会議（アンケート内容の最終確認）
26. 8. 1 紀見北地区公民館のシンポジウムについての協議
26. 8. 6 隅田地区公民館のシンポジウムについての協議
26. 8. 8 公民館主事会にてシンポジウムの進捗状況や内容について協議

- 26. 8. 20 和歌山大学村田先生とシンポジウムのファシリテーター講習について
和歌山大学松尾係長とアンケートの最終確認について
- 26. 8. 21 シンポジウムのためのファシリテーター講習実施
- 26. 9. 6 シンポジウム（隅田地区公民館）実施
- 26. 9. 10 学文路地区公民館のシンポジウムについての協議 滝元氏と粉生館長
- 26. 9. 11 アンケート発送
- 26. 9. 13 シンポジウム（高野口地区公民館）実施
- 26. 9. 17 シンポジウム（紀見北地区公民館）の最終確認
- 26. 9. 20 シンポジウム（紀見北地区公民館）実施
- 26. 9. 25 校長会でシンポジウム参加協力の依頼
- 26. 9. 30 西部地区公民館のシンポジウムについて協議
- 26. 10. 6 第5回全体部会会議第3回社会教育委員会議でアンケートとシンポジウムについて中間状況報告
- 26. 10. 7 PJ 第5回会議
- 26. 10. 7 シンポジウム（西部地区公民館）実施
- 26. 10. 18 シンポジウム（橋本地区公民館）実施
- 26. 11. 6 第5回全体部会会議第4回橋本市社会教育委員会議にて生涯学習推進計画の基本理念についての素案作成決定
- 26. 11. 7 学文路地区公民館のシンポジウムについて協議
- 26. 11. 15 シンポジウム（学文路地区公民館）実施
- 26. 11. 22 シンポジウム（恋野地区公民館）実施
- 26. 11. 29 シンポジウム（紀見地区公民館）実施
- 26. 12. 17 和歌山大学村田先生と今後について協議
PJ 第6回会議
- 27. 1. 28 第5回全体部会会議第5回社会教育委員会議にて生涯学習推進計画の基本理念及び提言書について協議
- 27. 2. 16 平成26年度第6回社会教育委員会議にて生涯学習推進計画の基本理念及び提言書について協議
- 27. 2. 28 有田市社会教育委員と橋本市社会教育委員の生涯学習推進計画についての交流会
- 27. 3. 6 和歌山大学村田先生と今後について協議
- 27. 3. 11 第5回全体部会会議（今後の予定と平成26年度のまとめ）
- 27. 3. 12 ママ・パパのおしゃべり広場（中央公民館）
- 27. 3. 14 ママ・パパのおしゃべり広場（きしかみ子ども館）
- 27. 3. 19 橋本市生涯学習推進計画策定委員会（第3回）
- 27. 3. 19 人づくり部会
- 27. 3. 20 地域の輪づくり部会
- 27. 3. 31 環境づくり部会

- 27. 4.10 第6回全体部会会議（基本方針と主要施策の決定）
- 27. 4.15 平成27年度第1回社会教育委員会議にて生涯学習推進計画の基本理念及び提言書について協議
- 27. 5.22 岡山市で内田氏とESD研修協議
- 27. 6. 3 ESDセミナー
- 27. 6. 5 平成27年度第2回社会教育委員会議にて提言書について協議
- 27. 6.17 第7回全体部会会議（社会教育委員の提言とESDの位置づけ）
- 27. 7. 1 環境づくり部会
- 27. 7. 9 地域の輪づくり部会
- 27. 7.10 人づくり部会
- 27. 7. 6 平成27年度第3回社会教育委員会議
- 27. 7.15 第8回全体部会会議（素案の作成について）
- 27. 7.27 平成27年度第4回社会教育委員会議
- 27. 7.29 地域の輪づくり部会
- 27. 7.30 環境づくり部会
- 27. 7.31 人づくり部会
- 27. 8. 3 橋本市生涯学習推進計画策定委員会（第4回）
- 27. 8.17 社会教育委員と市長の市政懇談会
- 27. 8.26 第9回全体部会会議（策定委員会の報告について）
- 27. 9. 7 和歌山大学村田先生と現状について協議
- 27. 9. 8 地域の輪づくり部会
- 27. 9.10 環境づくり部会
- 27. 9.18 第10回全体部会会議（修正資料について）
- 27.10.15 和歌山大学村田先生と計画素案について協議
- 27.10.20 第11回全体部会会議（修正資料について）
- 27.10.29 代表者会議
- 27.11.24 教育委員会議11月定例会議（橋本市社会教育委員会議による橋本市生涯学習推進計画策定に向けた提言書の報告）
- 27.11.30 代表者会議
- 27.12.22 第12回全体部会会議（重点目標と評価について）
- 28. 1.19 橋本市生涯学習推進計画策定委員会（第5回）
- 28. 2. 1～2.15 橋本市生涯学習推進計画のパブリックコメント実施
- 28. 2.26 橋本市生涯学習推進計画策定委員会（第6回）
- 28. 3. 8 平成27年度第7回社会教育委員会議
- 28. 3.28 生涯学習推進計画策定委員会委員長から教育長へ橋本市生涯学習推進計画案提出
- 28. 3.29 教育委員会議3月定例会議（橋本市生涯学習推進計画策定委員会による橋本市生涯学習推進計画の承認）

～中間見直し～

- R2. 6 生涯学習推進計画策定委員会条例 改正
2. 7. 10 和歌山大学村田先生と見直しについて協議
2. 8. 25 第1回橋本市生涯学習推進計画策定委員会議・諮問
2. 9. 10 第2回橋本市社会教育委員会議（見直しについて協議、学校関係者から重点目標2「ESDの推進」についてヒアリング）
2. 9. 16 市民アンケート実施（～10.2）
2. 9. 24 共育コーディネーター会議にて重点目標1「共育コミュニティの推進」についてヒアリング
2. 9. 30 公民館長会議にて重点目標3「地域を創る話し合いの場づくりの推進」についてヒアリング
2. 10. 7 公民館主事会にて重点目標3「地域を創る話し合いの場づくりの推進」についてヒアリング
2. 10. 27 第3回橋本市社会教育委員会議（主に重点目標について協議）
2. 11. 20 公民館運営審議会にて重点目標3「地域を創る話し合いの場づくりの推進」について意見聴取
2. 11. 24 第2回橋本市生涯学習推進計画策定委員会議
2. 12. 15 社会教育委員ミーティング（提言書について協議）
3. 1. 12 社会教育委員ミーティング（提言書について協議）
3. 1. 19 第4回橋本市社会教育委員会議（提言書について協議）
3. 3. 1 第3回橋本市生涯学習推進計画策定委員会議
社会教育委員会議から策定委員会へ「橋本市生涯学習推進計画の見直しに向けた提言書」が提出される
3. 3. 22 橋本市生涯学習推進計画策定委員会から教育長へ中間見直しについて答申